

国際オリエンテーリング連盟（ IOF ） フット・オリエンテーリング競技会 競技規則

COMPETITION RULES FOR INTERNATIONAL ORIENTEERING FEDERATION (IOF) FOOT ORIENTEERING EVENTS

(ワールドゲームズ・オリエンテーリング競技規則)
(世界オリエンテーリング選手権規則)
(オリエンテーリング・ワールドカップ規則)
(ジュニア世界オリエンテーリング選手権規則)
(世界マスターズ・オリエンテーリング選手権規則)
(IOF 世界ランキング競技会規則)

競技規則のこのバージョンは、2017年1月1日から有効である。
その後の修正は、IOF のオフィシャル Web サイト (<http://www.orienteering.org/>) で公表される。

(注釈)

この日本語版は、(公社) 日本オリエンテーリング協会・競技委員会が和訳したものである。
2015 年版から 2016 年版における変更箇所を左余白に破線で示している。
2016 年版から 2017 年半における変更箇所を左余白に二重線で示している。
付録 7 以降は、日本国内での競技に直接関係がないので、割愛した。

フット・オリエンテーリング競技会 競技規則

1. 定義 (Definitions)
2. 総則 (General provisions)
3. 競技会プログラム (Event programme)
4. 競技会申請 (Event applications)
5. クラス (Classes)
6. 参加 (Participation)
7. 費用 (Costs)

8. 競技会についての情報 (Information about the event)
9. エントリー (Entries)
10. 旅行および輸送 (Travel and transport)
11. トレーニングおよびモデル・イベント (Training and model event)
12. スタート順および枠の配分 (Starting order and heat allocation)
13. チーム・オフィシャル・ミーティング (Team officials' meeting)
14. テレイン (Terrain)
15. 地図 (Maps)
16. コース (Courses)
17. 制限されているエリアおよびルート (Restricted areas and routes)
18. コントロール位置説明 (Control descriptions)
19. コントロール・セットアップ、および装置 (Control set-up and equipment)
20. パンチング・システム (Punching systems)
21. 器具 (Equipment)
22. スタート (Start)
23. ファイニッシュおよび計時 (Finish and time-keeping)
24. 結果 (Results)
25. 表彰 (Prizes)
26. 公正な競技 (Fair play)
27. 申し立て (Complaints)
28. 提訴 (Protests)
29. 裁定委員 (Jury)
30. アピール (Appeals)
31. イベント・コントロール (Event control)
32. イベント・レポート (Event reports)
33. 広告および後援 (Advertising and sponsorship)
34. メディア・サービス (Media service)

付録 1: 一般的な競技クラス (General competition classes)

付録 2: コース・プランニングの原則 (Principles for course planning)

付録 3: 良好な自然環境対策における I O F の決意 (IOF resolution on good environmental practice)

付録 4: 認可されたパンチング・システム (Approved punching systems)

付録 5: ライプニッツ協定 (Leibnitz Convention)

付録 6: 競技の構成 (Competition Format)

付録 7: ヨーロッパオリエンテーリング選手権 (The European Orienteering Championships)

付録 8: ヨーロッパユースオリエンテーリング選手権 (The European Youth Orienteering Championships)

付録 9: アジアオリエンテーリング選手権 (The Asian Orienteering Championships)

付録 10: オセアニアオリエンテーリング選手権 (The Oceania Orienteering Championships)

付録 11: 北米オリエンテーリング選手権 (The North American Orienteering Championships)

付録 12: 南米オリエンテーリング選手権 (The South American Orienteering Championships)

主要競技会規則の索引 (Index to major event rules)

1. 定義 (Definitions)

- 1.1. オリエンテーリングは、競技者 (competitor) がテレイン (terrain) の中を独力でナビゲーションして進むスポーツである。競技者は、地上に表示された多くのコントロール・ポイント (control points) を、地図とコンパスのみを使用して、可能な限り短時間で走破しなければならない。コースは、コントロールの設置位置によって定義されるものであるが、競技者がスタートするまで公開してはならない。
- 1.2. 個人のインターバル・スタート競技では、競技者はテレインの中を独力でナビゲーションして走る。
- 1.3. マス・スタートおよびチェイシング・スタート競技では、競技者が互いにかかり接近して走ることがありうるが、形式的にはやはり独力でナビゲーションする。
- 1.4. 競技者という用語は、出場を認められた男・女の選手個人、あるいはチームを意味する。
- 1.5. オリエンテーリング競技 (competition) は以下のような形態 (type) に分類される。
 - 競技の開催時刻
 - ・ 昼間競技 (日中)
 - ・ 夜間競技 (日没後)
 - 競技の種別 (nature)
 - ・ 個人競技 (競技者個人が独立して行う)
 - ・ リレー競技 (2人以上の競技者が連続して継走する形式で行う)
 - ・ 団体競技 (2人以上の競技者が協力する方式で行う)
 - 競技結果の決定方法:
 - ・ 単一レース競技
(1本のレース結果が、最終成績になる。競技者は複数の異なるレースに参加してもよい。A-レース、B-レースなどに分け、A-レースの後でB-レースが行われるなど。)
 - ・ 複合レース競技
(1日または複数日で行われ、複数レースの所要時間の合計が最終成績になる。)
 - ・ 予選・決勝レース競技
(競技者は、1つ以上の予選を通過することで決勝のレースの参加資格を得る。予選では競技者がいくらかの枠に分けられる。予選の結果によって決勝のスタート順が決められる。決勝の結果のみが競技成績となる。A-決勝、B-決勝を置いてもよい。A-決勝より後ろの順位者はB-決勝となる。枠がひとつで、すべての競技者が決勝に進出できるとき、予選レースのことをプロローグ (prologue) と呼ぶ。)
 - コントロールの通過順序
 - ・ ポイント競技 (指定された順番に回る競技)
 - ・ フリー・ポイント競技 (任意の順番を回る競技)
 - レース距離 (または形式)
 - ・ ロング・ディスタンス
 - ・ ミドル・ディスタンス
 - ・ スプリント
 - ・ その他
 - レースのスタート方法
 - ・ インターバル・スタート (レースはタイムトライアルで行われる。最も速かった者が勝者となる。)
 - ・ マス・スタート (競技者が同時にスタートする。最初にフィニッシュした者が勝者となる。)
 - ・ チェイシング・スタート (事前のレースの成績にもといた時間間隔でスタートする。最初にフィニッシュした者が勝者となる。)

1.6. 連盟 (Federation) という用語は、IOF のメンバーである連盟を意味する。

1.7. 競技会 (event) という用語は、スタート順抽選、チーム・オフィシャル・ミーティング、および式典といった組織的事項も含めて、オリエンテーリング・ミーティングの全ての局面を総称する。1つの競技会 (例えば世界オリエンテーリング選手権) には、1つ以上の競技が含まれる。

TWG

1.8. ワールドゲームズ (TWG) オリエンテーリング競技会は、ワールドゲームズ・オリエンテーリングチャンピオンのタイトルを決する公式の競技会である。国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) の後援のもと、IOF および指定された連盟の主催で開催する。

WOC

1.9. 世界オリエンテーリング選手権 (WOC) は、オリエンテーリング世界チャンピオンのタイトルを決する公式の競技会である。IOF および指定された連盟の主催で開催する。

WCup

1.10. オリエンテーリング・ワールドカップ (WCup) は、全種目のシーズンを通じて世界で最も優れたオリエンティアを決するための公式の競技会シリーズである。IOF および主催者の連盟の共催で、複数の競技会を開催する。

JWOC

1.11. ジュニア世界オリエンテーリング選手権 (JWOC) は、オリエンテーリング・ジュニア世界チャンピオンのタイトルを決する公式の競技会である。IOF および指定された連盟の主催で開催する。

WMOC

1.12. 世界マスターズ・オリエンテーリング選手権 (WMOC) は、世界で最も優れたベテラン・オリエンティアを決するための公式の競技会である。IOF および指定された連盟の主催で開催する。

ROC

1.13. 地域オリエンテーリング選手権 (ROC) は、IOF の各地域 (Region) におけるオリエンテーリング地域チャンピオンのタイトルを決する公式の競技会である。IOF および指定された連盟の主催で開催する。IOF の各地域とは、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北米、オセアニアおよび南米をいう。

WRE

1.14. IOF 世界ランキング競技会 (WRE) は、IOF 理事会 (council) で承認されて公式 IOF カレンダーに記載された国際競技会である。IOF および主催者の連盟の共催で開催する。

1.15. IOF 世界ランキング方式 (scheme) は、TWG、WOC、WCup、WRE での成績にもとづいて、エリート・オリエンティアをランキングするものである。連盟の男女のランキング順位は、各々の連盟において最も上位の競技者のランキング・ポイントに基づいて決められる。

1.16. IOF イベントアドバイザー (Event Advisor) は、IOF イベントをコントロールするために指名された者をいう。ワールドゲームズ、世界オリエンテーリング選手権、ジュニア世界オリエンテーリング選手権、世界マスターズ・オリエンテーリング選手権および地域オリエンテーリング選手権では IOF シニアイベントアドバイザーという肩書を用いる。

2. 総則 (General provisions)

2.1. IOF 規則 (rules) は、付録も含めて、世界オリエンテーリング選手権、オリエンテーリング・ワールドカップ、ジュニア世界オリエンテーリング選手権、世界マスターズ・オリエンテーリング選手権、地域オリエンテーリング選手権および IOF 世界ランキング競技会の W21・M21 エリート・クラスに適用される。項番の前に競技会の省略形がついていない規則は、これらすべての競技会で有効である。1つか複数のある競技会でのみ有効な規則は、項番の横の線に特定の省略形が印としてつけてある。そのような特定の規則は、それと矛盾する一般規則より優先する。

2.2. 2つのタイプの競技会が同時開催される場合 (例えば、世界選手権がワールドカップの一部として開催される場合など)、高いレ

ベルの競技会の規則が優先される。(レベルの高さは 1.8-1.14 の順番にて定義される。)

- 2.3. 各国における規則は、IOF 規則を基本にするよう推奨する。
- 2.4. 特にことわりがない限り、IOF 規則はフット・オリエンテーリング競技の各日において有効となる。
- 2.5. IOF 規則と矛盾しなければ、主催者は追加規定 (regulations) を定めてもよい。それらは IOF イベントアドバイザーの同意を必要とする。
- 2.6. IOF 規則および追加規定は、すべての競技者、チーム・オフィシャルおよび、その他大会組織と関係を持つかあるいは競技者と接触する者に適用される。
- 2.7. 競技者、主催者および裁定委員 (Jury) は、IOF 規則を解釈するにあたり、スポーツの公平を旨としなければならない。
- 2.8. IOF 規則が翻訳されることによって解釈の相違が生じた場合、英文のテキストが優先される。
- 2.9. リレー競技においても、特にことわりがない限り、個人競技の規則が有効になる。
- 2.10. IOF 理事会は、引き続いて特別の規則あるいは基準を定める。(例) IOF 反ドーピング規則、IOF 式典 (protocol) ガイド、オリエンテーリング地図の国際仕様、スプリント・オリエンテーリング地図の国際仕様、コース・プランニングの原則、ライプニッツ協定、IOF コントロール位置説明。
- 2.11. IOF 理事会は、IOF 規則および基準から逸脱することを認めることがある。逸脱認可の申請は、競技会の最低 6 カ月前までに IOF 事務局 (Secretariat) に提出しなければならない。
- 2.12. 各イベントタイプに対して IOF ガイドラインが追加で定められる。大きく逸脱する場合は、IOF イベントアドバイザーの同意を必要とする。

TWG

- 2.13. TWG のレースは、IWGA 規則で許容できる範囲であり、TWG レースの異なる形式とも相応しうる限り、WOC の規則に準ずる。

JWOC

- 2.14. 選手権大会は、以下の原則にしたがって運営される。
 - ・各連盟からの最高のジュニア・オリエンティアにとって、高い技術的な品質の競技を提供されること。
 - ・競技会は、競争的な雰囲気であるよりはむしろ、経験を交換しあうことに重きを置いた社会的な雰囲気であること。
 - ・参加費用が低くおさえられること。

3. 競技会プログラム (Event programme)

- 3.1. 競技会の日付およびプログラムは、主催者から提案されて、IOF 理事会によって承認される。

WOC

- 3.2. 世界オリエンテーリング選手権は毎年開催される。プログラムには、スプリントの予選と決勝、単一レースとなったミドルとロング・ディスタンス、スプリント・リレー、リレーとともに、開会式、閉会式、適切なモデル・イベントおよび休日までが含まれる。

2019年以降、世界選手権大会のプログラムは変更になる。奇数年に、ミドル・ディスタンス競技の予選と決勝、単一競技のロング・ディスタンス競技、リレーが実施される。偶数年に、スプリント競技の予選と決勝、別のスプリント・タイプの競技、スプリント・リレーが実施される。

WCup

- 3.3. ワールドカップは、毎年開催される。個人ワールドカップは個人競技によって構成される。リレー・ワールドカップはリレー競技によって構成される。

WCup

- 3.4. IOF 理事会は、ワールドカップ競技会の回数と形態および、必要に応じて特別規則を決める。

WCup

- 3.5. ワールドカップ競技会は、別の競技会と相乗りで開催されるべきである。

JWOC

3.6. ジュニア世界オリエンテーリング選手権は、毎年開催される。プログラムには、単一レースとなったスプリント、ミドル・ディスタンスの予選と決勝、単一レースとなったロング・ディスタンス、リレーとともに、開会式、閉会式、および適切な休日およびモデル・イベントが含まれる。開催期間は、7 日間以内とする。

WOC

3.7. 個人競技では、男女ともに 3 つの平行コースによる予選枠が設けられる。

JWOC

3.8. ミドル・ディスタンス競技では、男女ともに 3 つの平行コースによる予選枠が設けられる。

WMOC

3.9. 世界マスターズ・オリエンテーリング選手権は、毎年開催される。プログラムには、2 つの予選と決勝、および適切なトレーニングまたはモデル・イベントが含まれる。2008 年以降は、1 つの予選および 1 つの決勝からなるスプリント競技も行われる。

ROC

3.10. 地域オリエンテーリング選手権は、2 年に一度開催される。

WRE

3.11. IOF 世界ランキング競技会になる競技会は、連盟同士で選択される。IOF が定める基準にしたがって、IOF によって各年にある回数だけ割り当てられる。

4. 競技会申請 (Event applications)

4.1. どの連盟も、IOF 競技会の開催を申請することができる。

4.2. 申請は、連盟から IOF 事務局へなされるものとする。公式の申請フォームを使い、要求されたすべての情報および保証を記入しなければならない。

4.3. IOF 理事会は、どの IOF 競技会にも公認料を課すことができる。公認料は、競技会の申請締め切りの最低 6 カ月前までに、通知される。

4.4. もし主催者が、規則、基準、IOF イベントアドバイザーの指示、あるいは申請時に提出した情報に応じなければ、IOF 理事会は、競技会の認可を無効にすることができる。主催者はこの場合にも損害賠償を要求することができない。

WOC

4.5. 開催申請は、選手権開催年の 4 年前の 1 月 1 日までに受領されなければならない。開催する連盟は、同年 10 月 31 日までに ~~IOF 総会 (Congress) (偶数年度) または IOF 理事会 (奇数年度)~~ で決定される。申請者は、決定前に IOF との契約書に調印しなければならない。

WCup

4.6. ワールドカップ競技会開催申請の案内状は、全ての連盟に送られる。各連盟は、優先度をつけて 2 つ以上の申請をしてもよい。開催申請は、開催年の 3 年前の 1 月 1 日までに受領されなければならない。開催する連盟は、同年 10 月 31 日までに IOF 理事会にて仮決定される。仮決定された事項は、6 カ月以内に競技会を組織する契約書に調印することによって最終確定されなくてはならない。さもなくば IOF 理事会は代替の決定をすることになる。

JWOC、WMOC

4.7. 開催申請は、競技会開催年の 3 年前の 1 月 1 日までに受領されなければならない。主催者および主催連盟の仮決定は、同年 10 月 31 日までに IOF 理事会でなされる。仮決定された事項は、6 カ月以内に競技会を組織する契約書に調印することによって最終確定されなくてはならない。さもなくば IOF 理事会は、代替の決定をすることになる。

WRE

4.8. IOF 理事会は、当該年の WRE 開催を割り当てられた各連盟に指示をするが、競技会は基準を満たしていなければならない。開催申請は、競技会開催前年の 9 月 30 日を締め切りとし、同年 10 月 31 日までに IOF 理事会で承認または却下の判断がなさ

れることとする。

5. クラス (Classes)

5.1. 競技者は、性別・年齢によってクラスが分かれる。女子は、男子クラスに参加してもよい。

5.2. 20 歳以下の競技者は、その年度の終わりまでに達する年齢のクラスに属する。彼らは、21 歳までの年齢が含まれる上のクラスに参加する権利がある。

5.3. 21 歳以上の競技者は、その年齢に達する年度の始めから、それぞれのクラスへ属する。彼らは、21 歳までの年齢が含まれる下のクラスに参加する権利がある。

WRE

5.4. 中心となる競技クラスは、それぞれ女子・男子別に W21 および M21 と呼ばれる。

WRE

5.5. W21 および M21 のクラスへの出場は、各連盟よりエリートの競技者として分類されるか、連盟のランキング方式での順位により選出された競技者に制限される。

WRE

5.6. 参加者が多すぎるクラスは、最近の成績を基準にして、平行コースのクラスへ分割してもよい。

WOC、WCup

5.7. 女子・男子ともクラスは 1 つだけ設けられる。いかなる年齢制限もない。

JWOC

5.8. 女子・男子ともクラスは 1 つだけ設けられる。W20 あるいは M20 に参加する権利がある競技者だけが出場できる。

WMOC

5.9. 以下のクラスが提供される。

W35, M35, W40, M40, W45, M45, W50, M50, W55, M55, W60, M60,
W65, M65, W70, M70, W75, M75, W80, M80, W85, M85.

より年配のオリエンティアのためのクラスは、それらのクラスに参加者がいる場合に提供される。

6. 参加 (Participation)

WOC、WCup、JWOC、WRE

6.1. 競技者は、1 暦年 (カレンダーイヤー) には 1 つの連盟だけを代表してよい。

WOC、WCup、JWOC、WRE

6.2. ある連盟を代表している競技者は、その連盟国のフル・パスポートを保持する市民権を持っていなければならない。

WOC、WCup、JWOC

6.3. 参加する各連盟は、チームと主催者との連絡窓口となるチーム・マネージャーを任命する。チームがすべての必要な情報を受けていることを確認することは、チーム・マネージャーの義務である。

6.4. 競技者は自らのリスクで参加する。国家の法令に従って、事故に対する保険をかけることは、各連盟あるいは選手自身の責任である。

WOC

6.5. すべての競技者は 1 つの連盟を代表する。各連盟は、制限されない複数人の競技者、および複数人のチーム・オフィシャルからなるチームをエントリーさせることができる。主催者は、利用できる設備の状況に応じて、チーム当りのオフィシャル数の上限を定めてもよい。チーム・オフィシャルの上限は各チームとも同じでかつ最低 5 人とする。

WOC

6.6. スプリントの予選には、各連盟とも最大女子 3 人・男子 3 人をエントリーすることができる。各レース距離における現世界選手権者は、3 人以外の枠でその連盟よりエントリーすることができる。

WOC

6.7. ミドルおよびロング・ディスタンスでは、各連盟ごとにエントリーできる競技者数が制限される。数は過去 2 回の世界選手権の成績に基づく。エントリーできる数は男女別に割り当てられる。割り当て方法は、IOF 理事会が特別規則として定めて公表する。割り当て数は遅くとも競技会の年の 1 月 31 日までに公表される。

2019 年以降、ミドル・ディスタンス競技の予選には、各連盟から 3 人までの女性選手と 3 人までの男性選手がエントリーすることができる。それに加えて、同種目の現在のワールドチャンピオン、地域チャンピオン、そして前年のワールドカップチャンピオンは、連盟のチーム・メンバーであればエントリーすることができる。

2019 年以降、ロング・ディスタンス競技には、各連盟がエントリーすることができる競技者の数は、連盟のランキングによって決まる。ランキングのスコアは、女性と男性で別々に計算される。主催者となる連盟は、ランキングに関係なく 3 人の出場枠を持つ。それに加えて、同種目の現在の世界チャンピオン、地域チャンピオン、そして前年のワールドカップチャンピオンは、連盟のチーム・メンバーであればエントリーすることができる。

WOC

6.8. スプリント・リレーには、各連盟とも 4 人のチーム・メンバーから 1 チームをエントリーすることができる。チームには少なくとも女性を 2 名含まなければならない。人数が欠けたチームおよび 2 つ以上の連盟の競技者からなるチームは、参加できない。いかなる場合であろうと、エントリーされた以外の競技者が競技に参加することはできない。

WOC

6.9. リレーには、各連盟とも 3 人のチーム・メンバーからなる女 1 チームおよび男子 1 チームをエントリーすることができる。人数が欠けたチームおよび 2 つ以上の連盟の競技者からなるチームは、参加できない。いかなる場合であろうと、エントリーされた以外の競技者が競技に参加することはできない。

WCup

6.10. すべての競技者は 1 つの連盟を代表する。競技者は、1 つのワールドカップシリーズにおいて 1 つの連盟の代表にしかなれない。連盟ごとの競技者数は IOF 世界ランキングをもとにして公表された年間の参加者枠の範囲に限定される。ワールドカップ競技会が地域選手権と共催される場合は、その地域の現地域選手権者は、その連盟の参加者枠以外に参加することができる。

JWOC

6.11. すべての競技者は 1 つの連盟を代表する。各連盟は、最大 12 人の競技者（女子 6 人・男子 6 人）、および 4 人のチーム・オフィシャルからなるチームをエントリーすることができる。

JWOC

6.12. すべての競技者は、3 つの個人競技を走ることができる。リレーには、各連盟とも、3 人のチーム・メンバーからなる女子 2 チームおよび男子 2 チームまでをエントリーすることができる。

JWOC

6.13. 完全なリレー・チームを構成することができない連盟は、不完全なチームまたは他連盟の競走者を含めた混成チームを構成してもよい。競技会には、一連盟あたり男子 6 名、女子 6 名以上はエントリーできない。いかなる事情であっても、エントリーした競技者以外の者が競技に参加することはできない。

WOC, WCup

6.14. 競技者は IOF の有効なアスリート・ライセンスを取得していなければならない。

7. 費用 (Costs)

7.1. 競技会を組織する費用負担は、主催者の責任とする。主催者は、競技の費用を賄うために、競技者に参加費、非競技者（チーム・オフィシャル、メディア等）に認定料を課してもよい。参加費はできるだけ低くおさえられるようにし、IOF イベントアドバイザーの

承認をえなければならない。複数競技からなる競技会は、全競技会の合計参加費の代わりに、主催者は、認定料プラスエントリーする競技の参加費というオプションを競技者に提供しなければならない。

7.2. 各連盟あるいは個々の競技者は、招待状に指定された参加費を払う責任を負う。参加費を払うためのタイムリミットは、競技会の6週間前より早くしてはならない。支払いが遅れた場合には参加費の割り増しをしてもよい。

7.3. 遅れエントリーや変更は、主催者が対応可能ならば受け付けてよい。参加費の割り増しをしてもよい。割増額は、IOF イベントアドバイザーの承認をえなければならない。

WOC, WCup, JWOC

7.4. 遅れエントリーや変更については、以下が適用される。

- ・ チーム人数の締め切り後（9.6 参照）、追加エントリーの追加料金は 20%、取り消しの払い戻しは 80%とする。
- ・ チーム・メンバーの締め切り後（9.7 参照）、追加エントリーの追加料金 50%、取り消しの払い戻しは 50%とする。メンバー変更には 10 ユーロの手数料を課すこととする。

主催者は、追加エントリーへの課徴金やメンバー変更、これらの追加手数料を課すかどうかを決めることができる。払い戻しは必ず行われるものとする。

7.5. 各連盟あるいは個々の競技者は、競技会までの旅行、宿泊、食事、および宿泊地と競技会場（event centre）と競技サイト（event sites）の間に移動設備、食物、および輸送の費用を支払う責任を負う。競技サイトまで公式の輸送手段を強制する場合は、これらの費用は参加費に含まれることとする。

7.6. IOF が任命したイベントアドバイザーおよびアシスタントの開催地まで往復の旅行費用は、IOF の負担とする。コントロールのための滞在および競技会当日の現地での費用は、各国の規定にしたがって主催者あるいは主催者が属する連盟が支払う。

7.7. 連盟が指名した IOF イベントアドバイザーおよびアシスタントのすべての費用は、各国の規定にしたがって主催者あるいは主催者が属する連盟が支払う。

WOC, JWOC

7.8. 非常に安価で良い水準の標準の宿泊と食事が用意できない場合は、競技者が価格帯を選択できるように、異なる水準の宿泊施設と食事が提供されなければならない。競技の参加費と、食事、宿泊費は分けて表示されなければならない。いかなる場合も、主催者が用意した宿泊施設を利用することを義務付けられることはない。

7.9. 競技会（またはその一部）が、天候・テレインの破壊等主催者のコントロールできない理由でキャンセルされた場合、主催者は、要したコストを賄うために、参加費のうち最低限の一定割合を保持することができる。

8. 競技会についての情報 (Information about the event)

8.1. すべての情報および式典は、少なくとも英語ではなされなければならない。公式の情報は、書面で伝えられなければならない。緊急の場合およびチーム・オフィシャル・ミーティングの質問に応える場合のみ、口頭でもよい。

WOC, WCup, JWOC

8.2. 主催者あるいは IOF イベントアドバイザーからの情報は、ブリテン (bulletins) の形で与えられる。ブリテンは文書または IOF Web サイトにリンクが貼られる形で公表される。ブリテン 3 が公表されたという通知は、参加しているすべての連盟に電子メールで送付される。もしそれ以上の情報が必要なら、すべてのしかるべき連盟に対して通知することとする。

WOC, WCup, JWOC

8.3. ブリテン 1 (準備情報)は、以下の情報を掲載する。

- ・ 主催者、競技会のディレクター、イベントアドバイザーおよびコントローラーの氏名
- ・ 情報の問い合わせ先の電話番号、電子メールアドレス、Web ページ
- ・ 開催地
- ・ 期日と競技形態
- ・ クラスおよび参加資格

- ・ トレーニング機会
- ・ 地域の一般的な地図
- ・ 立入禁止区域
- ・ その他特記事項

WOC ・ 立入禁止区域で作成されたオリエンテーリング地図の最新版のカラー・コピー

WOC, WCup, JWOC

8.4. プリテン 2(招待状)は、以下の情報を掲載する。

- ・ プリテン 1 で提供されたすべての情報
- ・ 正式なエントリー・宿泊申し込みフォーム
- ・ エントリーの締め切りと宛先
- ・ 競技者およびチーム・オフィシャルのエントリー費
- ・ エントリー費払い込みの締め切りと宛先
- ・ 宿泊施設と食事の種類と費用
- ・ 公式の宿泊施設の予約の締め切り
- ・ 提供される輸送機関の説明
- ・ 入国許可(ビザ)を得るための指示
- ・ トレーニング機会の詳細
- ・ テレイン、気候、および危険事項の説明
- ・ 地図の縮尺と等高線間隔
- ・ イベント・プログラム
- ・ 使用するパンチング・システム
- ・ 必要であれば、競技衣類の注意事項
- ・ 各コースのウイニング・タイムとおおよその距離
- ・ 広報担当者の電話番号、電子メールアドレス
- ・ テレインのタイプを示す最新のサンプル地図
- ・ 決まっていれば、各競技エリアとフィニッシュ会場 (arena) の正確な位置

WOC ・ チームあたりのオフィシャルの人数

WCup, JWOC ・ 立入禁止区域で作成されたオリエンテーリング地図の最新版のカラー・コピー。

WOC, WCup, JWOC

- ・ メディアおよび参加者以外の連盟の代表者の登録のための指示

WOC, WCup, JWOC

8.5. プリテン 3(競技会情報)は、以下の情報を掲載する。

- ・ 参加者の正確な人数を通知する締め切り
- ・ 参加者の名前を通知する締め切り
- ・ 最終的な名前のエントリーおよびスタート・グループの配分のためのタイムテーブルを含む競技会の詳細なプログラム
- ・ テレインの詳細
- ・ エントリー状況のサマリー
- ・ 適用外とされるすべての規則項目
- ・ 競技事務局の住所、電話番号、電子メールアドレス
- ・ 宿泊設備および食事の詳細
- ・ 移動のスケジュール
- ・ 各個人競技のコースおよびリレーの各レッグ毎の、コース距離、全登距離、コントロールの数、給水コントロールの数

- ・ チーム・オフィシャルのミーティング
- ・ 各競技エリアとフィニッシュ会場の正確な位置

WOC, WCup, JWOC

8.6. プリテン 4(追加の競技会情報)は、競技者が現地に到着した時にわたされ、以下の競技会の最終的な詳細情報を掲載する。

- ・ 反ドーピングのための必要条件
- ・ 競技会に関連したすべての特別規則
- ・ 承認された追加の規定と規則の逸脱
- ・ プレ・スタートで配布されるコントロール位置説明の寸法
- ・ 申し立ての制限時刻
- ・ 申し立てを行う場所
- ・ 最大競技時間
- ・ 裁定委員の名前と連盟
- ・ 隔離ゾーンの場所および競技者・オフィシャルがその中に入らなければならない時間

WOC, JWOC

8.7. プリテン 1 は競技会の 24 カ月前に、プリテン 2 は 12 カ月前に、プリテン 3 は 3 カ月前に発行されなければならない。

WCup

8.8. プリテン 1/2 は競技会の 12 カ月前に、プリテン 3 は 2 カ月前に発行されなければならない。

WMOC, WRE

8.9. 主催者からの情報は、2 つのプリテンの形で与えられる。プリテン 1 は IOF の Web サイトを通じてインターネット上で利用可能にする。プリテン 2 は、すべての競技者に配布される。

WMOC

8.10. プリテン 1 は競技会の 18 カ月前には利用可能にする。プリテン 2 は競技会の 1 カ月前には利用可能にする。

WRE

8.11. プリテン 1 は競技会の 4 カ月前には利用可能にする。プリテン 2 は競技会の 1 週間前には利用可能にする。

WMOC, WRE

8.12. プリテン 1 (準備情報と招待状) には、以下の情報を含む。

- ・ 主催者、競技会のディレクターおよびコントローラーの氏名
- ・ 情報の問い合わせ先の電話番号、電子メールアドレス、Web ページ
- ・ 開催地
- ・ 期日と競技形態
- ・ クラスおよび参加資格
- ・ 地域の一般的な地図
- ・ 立入禁止区域
- ・ その他特記事項
- ・ 正式なエントリー・フォーム
- ・ エントリーの締め切りと宛先
- ・ 競技者のエントリー費
- ・ エントリー費払い込みの締め切りと宛先
- ・ 宿泊施設と食事の種類と費用
- ・ 提供される輸送機関の説明
- ・ 入国許可(ビザ)を得るための指示
- ・ テレイン、気候、および危険事項の説明

- ・ 地図の縮尺と等高線間隔
- ・ イベント・プログラム
- ・ 使用するパンチング・システム
- ・ 必要であれば、競技衣類の注意事項
- ・ ウィニング・タイム
- ・ トレーニング機会の詳細

WMOC ・ テレインのタイプを示す最新のサンプル地図

WMOC ・ 立入禁止区域で既存のオリエンテーリング地図のコピーを得る方法についての情報

WMOC, WRE

8.13. プリテン 2 (競技会情報) には、以下の情報を含む。

- ・ スタートリスト含む競技会の詳細なプログラム
- ・ テレインの詳細
- ・ エントリー状況のサマリー
- ・ 適用外とされるすべての規則項目
- ・ 競技事務局の住所、電話番号、電子メールアドレス
- ・ 移動のスケジュール
- ・ 各個人競技のコースおよびリレーの各レッグ毎の、コース距離、全登距離、コントロールの数、給水コントロールの数
- ・ プレ・スタートで配布されるコントロール位置説明の寸法
- ・ 申し立ての制限時刻
- ・ 申し立てを行う場所
- ・ 最大競技時間
- ・ 裁定委員の名前と連盟

9. エントリー (Entries)

9.1. エントリーは、プリテン 2 に記載されたインストラクションにしたがって行われるものとする。少なくとも、各競技者について以下の細目を提出する： 姓名、性別、誕生年、連盟。またチーム・オフィシャルの名前も提出する。遅れエントリーは断ることができる。

9.2. 競技者は、いかなる競技についても、1 つのクラスにのみエントリーできる。

9.3. 参加費が支払われないか、支払いについてのいかなる合意もなされない場合は、主催者はその競技者またはチームの出走を取りやめさせてもよい。

WOC, JWOC

9.4. 宿泊の予約申込みおよび予約金は、プリテン 2 で記載された期日までに、主催者に届けねばならない。

WOC, WCup, JWOC

9.5. 競技者は、所属する連盟からのみ選出され、エントリーできる。

WOC, WCup, JWOC

9.6. 各性別の競技者の数、リレー・チームの数、チーム・オフィシャルの数、およびチーム監督の名前・住所・電話／ファックス番号を記載したエントリーを、遅くとも競技会の 2 カ月前に主催者に届けられねばならない。

WOC, WCup, JWOC

9.7. 各競技者の名前・性別とチーム・オフィシャルの名前は、遅くとも競技会の 10 日前に主催者に届けられねばならない。競技会前日の正午までは、チームの選手変更ができる。

WOC, WCup, JWOC

9.8. 競技者の名前および、要求された場合はスタート・グループへの割り当ては、遅くとも個人競技の前日の正午までに主催者に届けら

れねばならない。

WOC, JWOC

9.9. 競技者の名前および出走順は、遅くともリレー競技の前日の正午までに主催者に届けられねばならない。主催者は最終の届出時刻を定めてもよい。

WOC, WCup, JWOC

9.10. 個人競技においては、競技の前日正午から当該クラスのスタートが始まる2時間前までの間に、正当な理由（例えば、事故あるいは病気）があれば、交代することができる。スタート・グループや予選枠を変更することはできない。予選のあとの決勝レースや、複数レース競技で最初のレースを終えた後で、交代することはできない。

WOC, WCup, JWOC

9.11. リレーでは、エントリー締切後のメンバーおよび／または出走順の変更は正当な理由がある時のみ認められる。（例えば、事故や病気など）変更は、リレーのスタートの最低 2 時間前までに主催者に届けられねばならない。

9.12. 個人競技では、スタートが始まる 2 時間以内には競技者を交代することはできない。リレーでは、チーム・メンバーおよび出走順をリレーのスタートの 2 時間以内に変更することはできない。

WOC, JWOC

9.13. 競技会前日の正午以降は、エントリーしたチームの中でしか競技者の交代をすることはできない。

WCup, JWOC

9.14. 各個人競技では、それぞれの連盟は、3つのスタート・グループに対して、各組最大2人までの競技者を割り当てる。1つのグループへの2人目の競技者を割り当てるには、各グループへ1人は競技者を割り当てていなければならない。もし連盟が競技者のグループへの割り当てをしなかった場合は、主催者が割り当てを決めることとする。

WMOC

9.15. エントリーの最終締切日は、イベント開始の6週間前より早くしてはならない。

10. 旅行および輸送 (Travel and transport)

WOC, WCup, JWOC

10.1. 会場までの交通は、参加する各連盟で責任を持つ。

WOC, JWOC

10.2. 要請があれば、主催者が、最も近い国際空港あるいは駅から、競技会場あるいは宿泊施設までの輸送チームを手配する。このサービスにチームが金銭負担をすることとしてもよい。

WOC, WCup, JWOC

10.3. 宿泊施設、競技会場、競技サイト等との間の輸送は、主催者が手配しても、あるいはチームが手配してもよい。要請があれば、主催者が競技会の期間中のすべての必要な輸送手段を手配する。

10.4. 主催者は、競技サイトまでの移動は公式の輸送手段を使用することを義務づけてもよい。

11. トレーニングおよびモデル・イベント (Training and model event)

11.1. 要請があれば、競技に先立ってトレーニングの機会を提供する。

11.2. 競技会開始の前日以前に、主催者は、トレインのタイプ、地図の品質、コントロールの特徴物、および、コントロールや給水ポイントおよびマーク・ルートの設置についてデモするモデル・イベントを設けることとする。

11.3. 競技者、チーム・オフィシャル、IOF 役員、およびメディア代表者は、モデル・イベントに参加する機会を提供される。

11.4. IOF イベントアドバイザーが必要だと判断すれば、さらに追加でモデル・イベントを催すこととする。

11.5. IOF イベントアドバイザーが問題ないと判断すれば、モデル・イベントは競技当日にスタートが始まるのに先立って行ってもよい。

WOC

11.6. すべての連盟に等しく、トレーニングの機会が提供されなければならない。主催者は、選手権の 18 カ月前以内に、トレーニングの機会を提供しなければならない。テレインと地図は、選手権のものでできるかぎり類似しているべきである。

12. スタート順および枠の配分 (Starting order and heat allocation)

12.1. インターバル・スタートにおいては、競技者は等しいスタート間隔で一人ずつスタートする。マス・スタートにおいては、同一クラスのすべての競技者が、同時にスタートする。リレーにおいては、チームの第一走者のみがマス・スタートを適用する。チェイシング・スタートにおいては、前回までの結果に応じたスタート時刻と間隔で、競技者が一人ずつスタートする。

12.2. スタート順は、IOF イベントアドバイザーの承認を必要とする。スタート抽選は、公開の場でも非公開の場で行ってもよい。抽選は手で行ってもコンピューターを使用してもよい。

12.3. スタート・リストは、競技の前日以前で、かつ競技規則 13.1 項にしたがって開催されるチーム・オフィシャル・ミーティングの前までに公表されることとする。もし予選が決勝と同じ日に開催されるなら、決勝のスタート・リストはスタート開始の最低 1 時間前までに公表されることとする。

12.4. たとえ競技者が到着してなくても、正しくエントリーされたすべての競技者およびチームの名前が、抽選の対象となる。名前のないエントリー（ブランク）は、抽選の際に無視される。

WOC

12.5. 予選・決勝レース競技の決勝を除き、インターバル・スタートのスタート順はグループ毎に抽選とする。予選レースにおいては、3 つのスタート・グループ（早い組、真ん中の組、遅い組）の中で抽選が行われるものとする。単一レースにおいては、IOF ランキングに基づいてグループが分けられるものとする。詳細な配分方法は IOF 理事会で定められた特別規則として公表される。

JWOC

12.6. 予選・決勝レース競技の決勝を除き、インターバル・スタートのスタート順は抽選とする。通常は 3 つのスタート・グループ（早い組、真ん中の組、遅い組）の中で抽選が行われるものとする。

WOC, JWOC

12.7. インターバル・スタートでは、同じ連盟からの競技者が連続してはスタートしないこととする。もし抽選で連続したときには、次の競技者を彼らの間に入れることとする。もし抽選の終わりでスタート・グループの最後で連続したときには、その前の競技者を間に入れることとする。

WOC, JWOC

12.8. 予選・決勝レース競技では、以下の要求がそれぞれ満たせられるように、予選のスタート抽選が行われることとする：

- ・ 最終のスタート時刻を除き、各スタート時刻に平行コースの枠数と同じ数だけの競技者がスタートする。
- ・ 可能な限り、各枠コースの強度は同等とする。
- ・ 同じ連盟からの競技者が同じ枠であった場合、同時にスタートさせない。
- ・ 異なる枠へ競技者を配分するには、同じ連盟からの競技者が、その枠の中で数学的にみて可能な限り等しく散布されるようにする。

12.9. 予選・決勝レース競技で、2 人またはそれ以上が予選通過の最下位で同順位となった場合は、全員が決勝に進出する。

WOC

12.10. スプリントの決勝には、それぞれの予選枠で 15 位以内に入った競技者のみが参加できる。

2019 年以降、ミドル・ディスタンス競技の決勝には、それぞれの予選枠で 15 位以内に入った競技者のみが参加できる。それに加えて、15 位以内に誰も入れなかった連盟からは、最も上位の者が参加できる。

JWOC

12.11. ミドル・ディスタンス競技では、それぞれの予選枠で 20 位以内に入った競技者のみが A-FINAL に進出できる。21 位から 40 位の競技者は B-FINAL となり、残りの競技者は C-FINAL となる。予選に出走しながら失格となった競技者は、そのクラスで一番

下のランクの選手の前に出走することができるが、成績リストでは順位がつかない。

- 12.12. 予選・決勝レース競技で、決勝のスタート順（チェイシング・スタートを除く）は、予選順位の逆順とする。最も上位の競技者が、最後にスタートする。同タイムの場合は、くじ引きで決める。例えば、もし 2 人の競技者が第 1 枠で同着 6 位になったとしたら、どちらが第 1 枠の 6 位扱いでどちらが 7 位扱いするかをコイン・トスで決めることにより、この規定を満たす。異なる枠において同順だった競技者は、枠のナンバー順にスタートする。例えば、1、2、3... ; したがって最も大きいナンバー枠の勝者が最後にスタートすることになる。

WOC, JWOC

- 12.13. 予選・決勝レース競技の決勝で同じ連盟からの競技者が連続したスタートになった場合で、スタート・リストの最後でそうなったとき（すなわち最終出走者）には以下の措置をとる。連続してスタートする同じ連盟からの 2 人の選手の、すぐ前の他連盟選手を、2 人の間に入れる。スタート・リストの先頭で、2 人以上の同じ連盟からの選手が連続した場合は、逆の手順とする。例えば、

A1、A2、A3、B、C、D、E1、E2、E3 → A1、A2、A3、B、C、E1、E2、D、E3

→ A1、A2、A3、B、E1、C、E2、D、E3

（逆の手順） → A1、B、A2、A3、E1、C、E2、D、E3

→ A1、B、A2、E1、A3、C、E2、D、E3.

- 12.14. マス・スタートの抽選の前に、いろいろなコースの組み合わせそれぞれに、スタート番号を割り当てておくこととする。コースの組み合わせは、最終の競技者がスタートするまで、秘密にしておかなければならない。

WOC, JWOC

- 12.15. 予選における各競技者の枠の配分は、IOF イベントアドバイザーの同席のもとで抽選されることとする。~~枠の配分は、最終の競技者がスタートするまで、秘密にしておかなければならない。~~

WOC, JWOC

- 12.16. リレーでは、エントリーしたチームは、直近の当該リレー選手権の順位にしたがってスタート番号が与えられる。直近の選手権で順位がつかなかった者は、最後に続けてアルファベット順でスタート番号が与えられる。いろいろなコースの組み合わせの配分は、IOF イベントアドバイザーの同席のもとで行われることとする。配分は、最終の競技者がスタートするまで、秘密にしておかなければならない。

WOC

- 12.17. スプリントリレーでは、最初と最後のレッグは女性とする。

JWOC

- 12.18. 人数の揃わないリレー・チームも複数の連盟からの競走者からなるチームも、正規リレー・スタートと同時にスタートすることができる。

JWOC

- 12.19. インターバル・スタートにおけるスタート間隔は、通常ロング・ディスタンスは 3 分、ミドル・ディスタンスは 2 分、スプリントは 1 分とする。

WOC,

- 12.20. ロング・ディスタンス競技のスタート間隔は 3 分とする。ミドル・ディスタンス競技のスタート間隔は 2 分とする。スプリント競技のスタート間隔は決勝で 1 分、予選は 1 分または 1.5 分とする。ロング・ディスタンス競技および／またはミドル・ディスタンス競技を TV でフル・ライブ中継するために、スタート間隔を短くしなければならない場合には、ロング・ディスタンス競技で 2 分および／またはミドル・ディスタンス競技で 1.5 分としてもよい。

JWOC

- 12.21. ロング・ディスタンス競技のスタート間隔は 2 分とする。しかしながら、一クラスが 180 人を超える場合は、1.5 分間隔としてもよい。ミドル・ディスタンス競技の予選のスタート間隔は 3 分とする。

WMOC

- 12.22. 予選レースでは、それぞれのクラスの競技者は、抽選により平行コースの枠に割り当てられる。同じクラス内のそれぞれの枠は、数学的にみて可能な限り等しい大きさで、かつ競技者が 80 人を越えてはならない。枠の数はできるだけ少なくするものとし、競技者が

80 人以下の場合はそのクラスの枠は一つとする。同じ連盟からの競技者と前回の WMOC で順位のついた者は、それぞれの枠に等しく配分されることとする。

WMOC

12.23. 2 つの予選の合計タイム（スプリントの場合は 1 つの予選のタイム）をもとに、それぞれの予選枠で最も成績のよい競技者が A-FINAL の参加資格を得る。それに次ぐ競技者は B-FINAL の参加資格を得る、などとなる。

- ・ 161 名以上の予選出場者がいる場合は、それぞれの予選枠から A-FINAL へ進出する者は同数とし、80 人または 80 以上で最も小さい数の人数になるように計算する。B-FINAL などについても同様に計算するが、2 ランク以上の決勝があって、最下位ランクのレースの資格者が 20 人以下になったときは、その一つ上のランクに移行してもよい。
- ・ 予選出場者が 20 名から 160 名の場合は、できるだけ同数になるように A-FINAL と B-FINAL に分割し、最低でも半数は A-FINAL になるようにする。
- ・ 予選出場者が 20 名以下の場合は、全員が A-FINAL となる。

もし 2 人以上の競技者が決勝資格順で同位置になったら、両者ともその決勝の参加資格を得る。片方または両方の予選に出走しながら失格となった競技者は、そのクラスで一番下のランクの選手の前に出走することができるが、成績リストでは順位がつかない。

WMOC

12.24. ロング・ディスタンス競技の予選のスタート間隔は通常 1 分とする。少数の競技者しかいない枠では、全体のスタート時間が 80 分以内におさまるのであれば、より長いスタート間隔としてもよい。ロング・ディスタンス競技の決勝のスタート間隔は 2 分とする。スプリント競技のスタート間隔は予選・決勝とも 1 分とする。

13. チーム・オフィシャル・ミーティング (Team officials' meeting)

WOC, WCup, JWOC

13.1. 主催者は、各競技の前までにチーム・オフィシャル・ミーティングを開催することとする。このミーティングは遅くとも 19:00 までに開始する。IOF イベントアドバイザーがこのミーティングを進行または監督する。

WOC, WCup, JWOC

13.2. ミーティングに先立って、競技に関する情報(スタート・リスト、輸送スケジュール、プリテン 4 からの変更、天気予報 etc) を配布することとする。

WOC, WCup, JWOC

13.3. チーム・オフィシャルは、ミーティング中に質問をする機会が与えられることとする。

WMOC, WRE

13.4. チーム・オフィシャル・ミーティングは行わない。

14. テレイン (Terrain)

14.1. テレインは、競技性をもったオリエンテーリング・コースを設定するのに適しており、付録 6 に記載の基準に適合していなければならない。テレインと競技会場の選定、およびコース設計の際には、ライプニッツ協定の目標が考慮されなければならない。

14.2. 競技テレインは、どの競技者も不当に優位に立つことのないよう、競技の前に可能な限り長くオリエンテーリングに利用されないようにしなければならない。

14.3. 競技が決定すれば、できるだけ早急にテレインへの立ち入りを禁止しなければならない。もしそれが不可能ならば、できるだけ早急にテレインへアクセスする取り決めを公表しなければならない。

14.4. 立入禁止テレインにアクセスする必要がある場合は、主催者より許可を得なければならない。

14.5. エリア内では、自然保護、営林、狩猟 etc のいかなる権利も尊重されなければならない。

15. 地図 (Maps)

- 15.1. 地図、コース・マーキング、および追加印刷は、「IOF オリエンテーリング地図のための国際仕様」または「IOF スプリント・オリエンテーリング地図のための国際仕様」にしたがってなされるものとする。逸脱する場合は IOF 理事会の同意を必要とする。
- 15.2. ロング・ディスタンス競技の地図縮尺は、1:15000 とする。ミドル・ディスタンス競技およびリレーの地図縮尺は、1:15000 または 1:10000 とする。スプリント競技の地図縮尺は、1:5000 または 1:4000 とする。
- 15.3. 地図の間違い、または地図が印刷された後でテレインに変化があり、それが競技会に影響があるのであれば、地図に重ね刷りする。
- 15.4. 地図は、湿気およびダメージに耐えうるものでなくてはならない。
- 15.5. もし競技エリアに以前に作られたオリエンテーリング地図があれば、最新版のカラー・コピーをすべての競技者に、競技の前日に提示しなければならない。
- 15.6. 競技当日は、主催者が許可するまで、競技者あるいはチーム・オフィシャルは競技のエリアを記したいかなる地図の使用も禁止される。
- 15.7. 競技地図は、コースを走る競技者が必要とする以上に大きくてはいけない。

WMOC

- 15.8. 45 歳以上の年齢のクラスの地図は、1:10000 の縮尺とする。この縮尺をすべてのクラスに適用する場合は、IOF イベントアドバイザーの同意を必要とする。スプリント競技の縮尺は、1:5000 または 1:4000 とする。

WOC, WCup, JWOC, WMOC

- 15.9. IOF および加盟連盟は、主催者へ料金を払わなくても、公式出版物および自身の Web サイトにコースを記載した競技会地図を複製する権利がある。

16. コース (Courses)

- 16.1. IOF コースプランニングの原則(付録 2 を見よ)とライブニッツ協定(付録 5 を見よ)に従わなければならない。
- 16.2. コースの水準は、国際オリエンテーリング競技会にふさわしいものでなければならない。競技者のナビゲーション技能、集中力、および走る能力が、試されなければならない。コースによって異なるオリエンテーリング技術が問われる。
- 16.3. コース距離は、スタートからコントロールを経由してフィニッシュまでの直線距離で与える。ただし、物理的に通行不能な妨害（高いフェンス、湖、通れない崖 etc）、立入禁止エリア、およびマークド・ルートは例外とする。
- 16.4. 全体の登距離は、最も短いと考えられるルートに沿った登距離をメートルで与えることとする。
- 16.5. 予選レースでは、平行する枠のコースは、できる限り同じ距離で同じ水準に近づけることとする。
- 16.6. リレー競技では、コントロールはチームによって異なった並びになるが、総体としては全チームが同じコースを走ることとする。もしテレインとコース・コンセプトによっては、レッグの距離は著しく異なってもよいが、レッグ毎のウィニング・タイムの合計は、規定通り維持されなければならない。全チームが、同じ順番で異なる距離のレッグを走らなくてはいけない。
- 16.7. 個人競技においては、コントロールの並びが競技者ごとに異なってもよい。しかし、すべての競技者は総体として同じコースを走らなければならない。

WOC

- 16.8. たいいてい場合は、同時にレースが進行するのであれば、女性と男性およびミドル・ディスタンスの決勝とロング・ディスタンスの決勝で別々のコントロールを使用することとする。

WOC, WCup

- 16.9. コースは、以下のウィニング・タイム（分）に設定されることとする：

女性	男性	
45	60	ロング・ディスタンス予選

70 - 80	90 - 100	ロング・ディスタンス決勝
25	25	ミドル・ディスタンス予選
30 - 35	30 - 35	ミドル・ディスタンス決勝
12 - 15	12 - 15	スプリント予選
12 - 15	12 - 15	スプリント決勝
12 - 15	12 - 15	スプリントリレーの各レッグ
	55 - 60	スプリントリレーで各レッグで最も速いタイムの合計
30 - 40	30 - 40	リレーの各レッグ
90 - 105	90 - 105	リレーで各レッグの最も速いタイムの合計

JWOC

16.10. コースは、以下のウィニング・タイム（分）に設定されることとする：

女性	男性	
55	70	ロング・ディスタンス
20 - 25	20 - 25	ミドル・ディスタンス
12 - 15	12 - 15	スプリント
30 - 40	30 - 40	リレーの各レッグ
90 - 105	90 - 105	リレーで各レッグの最も速いタイムの合計

WMOC

16.11. コースは、以下のウィニング・タイム（分）に設定されることとする：

女性	予選	各決勝	男性	予選	各決勝
W35	45	55	M35	60	70
W40	40	50	M40	55	65
W45	35	45	M45	50	60
W50	35	45	M50	45	55
W55	35	45	M55	40	50
W60	35	45	M60	40	50
W65	35	45	M65	40	50
W70	35	45	M70	40	50
W75	35	45	M75	40	50
W80	35	45	M80	40	50
W85	35	45	M85	40	50

スプリント・レースのコースは 12～15 分のウィニング・タイムに設定されることとする。

17. 制限されているエリア、およびルート (Restricted areas and routes)

- 17.1. 環境保護のために主催している連盟によって定められた規則や、主催者からのそれに関連する指示は、競技会に関わるすべての人々によって遵守されなければならない。
- 17.2. 立入禁止または危険なエリア、禁じられているルート、横切ってはいけない線状特徴物などは、地図上で印をつけなければならない。必要ならば、現地でも印をつけることとする。競技者は、このようなエリア、ルートあるいは特徴物に立ち入ったり、それに沿って走ったり横切ったりしてはならない。
- 17.3. ルートの誘導、横断するポイント、および通行箇所は、地図および現場で明瞭に印をつけなければならない。競技者は、コース上のいかなる誘導箇所も、すべてそれに沿って進まなければならない。

18. コントロール位置説明 (Control descriptions)

- 18.1. コントロールの正確な場所がコントロール位置説明によって定義されなければならない。
- 18.2. コントロール位置説明は、記号の形でかつ「IOF コントロール位置説明」に準拠しなければならない。
- 18.3. コントロール位置説明は、それぞれの競技者のコースの正しい順番で与えられ、競技地図の前面に貼付されるか印刷されなければならない
- 18.4. インターバル・スタートの競技では、各コースのセパレート・コントロール位置説明リストを、そのコースの競技者にプレ・スタートまたはスタート・レーンで配布する。その地点より前に公表してはならない。

19. コントロール設置、および装置 (Control set-up and equipment)

- 19.1. 地図で示されたコントロール・ポイントには、現地で明瞭にマークがされて、競技者がそこを通過したことを証明するための機器が設置されていなければならない。
- 19.2. それぞれコントロールは、30x30 c m の 4 角形で三角柱形に組み合わされたコントロール・フラッグによってマークされることとする。それぞれの面は対角線で分けられて、半分を白に別の半分をオレンジ(PMS165)とする。
- 19.3. フラッグは、コントロール位置説明にしたがって地図で示した特徴物に取り付けられなければならない。競技者が記された場所を視界に捉えたときに、フラッグも見えるようになっていなければならない。
- 19.4. コントロールは 30m以内に隣接して設置してはならない(地図の縮尺が 1:5000 または 1:4000 の場合は 15m)。コントロール間の距離は直線で測る。(付録 2, 3.5.5 項参照)
- 19.5.パンチしている人がいることで、付近にいる競技者がコントロールを見つけるのを著しく有利にすることのないように、コントロールが設置されフラッグが取り付けられていなければならない。
- 19.6. 各コントロールは、識別番号 (code number) で識別されることとする。これは、記印器具 (marking device) を使用しようとしている競技者が明瞭にコードを読むことができるように、コントロールに取り付けられていなければならない。31 より小さい番号を使用してはいけない。文字は、白地に黒で、高さは 3~10 c m、線の太さは 5~10mmで書かれることとする。上下を逆に誤読しかねないとき(例えば 161)は、番号に水平に下線を引く。
- 19.7. 競技者が通過したことを証明するために、各フラッグのすぐ側に記印器具を、十分な数だけ設置しなければならない。
- 19.8. 想定ウイニング・タイムが 30 分を越える場合は、勝者の想定スピードで少なくとも 25 分ごとに、給水 (refreshment) を設けなければならない。
- 19.9. 少なくとも給水として、適温の純水が提供されなければならない。もし別の給水が提供されるならば、それが明瞭にわかるようになっていなければならない。

WOC, WCup, JWOC

19.10. 想定ウイニング・タイムが 60 分を越える場合は、純水の他に WADA 準拠のスポーツドリンクを提供し、競技者 (athlete) が自分のドリンクを 1 またはそれ以上の箇所で給水する機会を設けることとする。

- 19.11. すべてのコントロールは、安全性を考慮して設置されなければならない。

20. パンチング・システム (Punching systems)

- 20.1. IOF が認可した (電子的またはそれ以外の) パンチング・システムのみ使用してもよい。 - 付録 4 参照
- 20.2. 電子式パンチング・システムを使う場合は、競技者がモデル・イベントで練習する機会が用意されなければならない。
- 20.3. 競技者は、各コントロールにおいて、提供されているパンチ器具を使って、自分自身のカードにパンチすることに責任を持つ。
- 20.4. コントロール・カードは、すべてのコントロールを通過したことを明瞭に示していなければならない。

20.5. コントロール・パンチが欠落しているか不明瞭なものがある競技者は、パンチのミスが競技者の落度ではないことが立証できなければ、失格となる。例外的に、コントロール役員またはカメラによる確認やコントロール機器を読み取ってくることで通過証明とすることができる。それ以外の場合には、そのような証拠は認められず、競技者を失格としなければならない。SI の場合は、この規則は以下を意味する。

- ・ 1 つの機器が故障していた場合は、競技者は用意されているバックアップを使用しなければならず、パンチの記録がなければ失格とする。
- ・ 競技者のパンチが速すぎてフィードバック・シグナルを受け取れなかった場合は、カードにはパンチの記録がないので、（たとえコントロール機器が競技者のカード・ナンバーを記録していても）競技者は失格となる。

20.6. 主催者は、指定されたコントロールで、役員によってコントロール・カードを確認させるかパンチさせる権利を持つ。

20.7. コントロール・カードを紛失するか、コントロールを飛ばすか間違った順番に通過した競技者は、失格とする。

21. 器具 (Equipment)

21.1. 主催者連盟の規定で別の細則がない限りは、衣類および履物の選択は自由とする。

21.2. スタート番号ゼッケン (bib) は、明瞭に見えるように、主催者によって指示されるように着用しなければならない。スタート番号ゼッケンは、25×25 cm以下で、文字は少なくとも高さ 10 cmとする。スタート番号ゼッケンは、折り曲げたり切ったりしてはいけない。

21.3. 競技中に、競技者がナビゲーションのために使用してよいのは、主催者から提供された地図とコントロール位置説明、およびコンパスだけである。

21.4. 主催者が許可した場合を除き、競技者はプレ・スタート入場からレースのフィニッシュまで通信機器を使用または保持してはならない。GPS 機能を有するデバイス（時計など）は、地図表示機能がなく、かつナビゲーション目的で使用しなければ携行してもよい。しかしながら、主催者はそのような器具の使用を特に禁止する権限を持つ。主催者は、競技者にトラッキング・デバイスおよび／または GPS データ記録装置の着用を求めることができる。

WOC, WCup, JWOC

21.5 競技者は、別の連盟の衣類を身に着けてはならない。

22. スタート (Start)

22.1. 個人競技では、スタートは通常インターバル・スタートである。リレー競技では、スタートは通常マス・スタートである。

22.2. 予選・決勝レース競技では、決勝の最初のスタートは、予選における最後のスタートの最低 2.5 時間後でなければならない。

WOC, JWOC

22.3. すべての競技者は、スタート地区で干渉されずに準備しウォーミングアップをするために、最低でも 30 分の時間を持てることとする。スタート前の競技者とチーム・オフィシャルだけが、ウォーミングアップ・エリアに入ってよいこととする。

22.4. 計時を開始するスタートの手前にプレ・スタートを置く方式を採用して、スタートをウォーミングアップ・エリアの端としてもよい。もしプレ・スタートがあれば、呼び出し時刻をチーム・オフィシャルおよび競技者へ示す時計をそこに設置し、競技者の名前を呼ぶか表示しなければならない。プレ・スタートの先へは、スタートした競技者と主催者に案内されたメディア取材者しか入ってはいけない。

22.5. スタートには、競技者への競技時刻に示す時計が置かれなければならない。もしプレ・スタートがなければ、競技者の名前を呼ぶか表示しなければならない。

22.6. スタートは、後の競技者や他の人が、地図、コース、ルート選択あるいは最初のコントロールへの方向を見ることができないように設置しなければならない。もし必要なら、計時を開始するスタートからオリエンテーリングを開始する地点までマーク・ルートにしなければならない。

22.7. 競技者はスタート時刻と同時またはそれ以降に地図を取る。競技者は正しい地図を取ることに責任をもつ。スタートする前に競技者が見ることができるように、競技者のスタート番号、名前またはコースが地図またはその近くに示されなければならない。

22.8. オリエンテーリングを開始する地点は、地図上ではスタートの三角形で記し、もしそこが計時を開始するスタート地点でないならば、テレインには記印器具のないコントロール・フラッグを設置する。

22.9. スタート時刻に遅れた競技者も、スタートすることを許される。新しいスタート時刻が記録されなければならない。

- ・ マス・スタートまたはチェイシング・スタートの場合は、可能なかぎりスタートさせる。
- ・ インターバル・スタートで、遅刻者がスタートラインに到着した時に、スタート間隔の前半であった場合は、即座にスタートさせる。
- ・ インターバル・スタートで、遅刻者がスタートラインに到着した時に、スタート間隔の後半であった場合は、次の空いているスタート間隔の半分の間でスタートさせることとする。

22.10. 自分自身の過失によりスタート時刻に遅れた競技者は、正規のスタート時刻にスタートしたものととして計時する。主催者の過失によりスタート時刻に遅れた競技者は、新しいスタート時刻から計時されることとする。

22.11. チェンジ・オーバーは、各リレー・チームのメンバー同士がタッチすることで行う。チェンジ・オーバーは、フィニッシュして来るチーム・メンバーが次走者の地図を取り、それを受け渡すことによって行うことでタッチによるチェンジ・オーバーにかえてもよい。

22.12. リレーで正しくかつ適時にチェンジ・オーバーをすることは、主催者がフィニッシュして来るチームをあらかじめ通知することになっているとしても、競技者の責任である。

22.13. IOF イベントアドバイザーの同意があれば、主催者はチェンジ・オーバーできなかったリレー・チームの以降のレッグの競技者をマス・スタートさせてもよい。

WOC, WCup

22.14. リレー・チームは、いったん失格を承諾したら、そのチームのそれ以降のメンバーはスタートできない。

WOC, JWOC

22.15.

チェンジ・オーバー地区では、チーム次走者は、チームの前走者が戻ってくるいくら前にはそれを知らされることとする。

WOC, WCup, JWOC

22.16. 主催者は、スタート前の選手がコースについての情報を得ることを防ぐために隔離ゾーンを設けることができる。主催者は、選手及びチーム・オフィシャルが隔離ゾーンの中にいなければならない時間を定める。主催者は、隔離ゾーンで待つ選手のための適切な便宜（トイレ・給水・雨除け等）を提供しなければならない。選手またはチーム・オフィシャルが締切時間以降に隔離ゾーンに入ろうとした場合は、入場を拒否してもよい。主催者は隔離ゾーンで通信機器を使うことを禁止しなければならない。

23. フィニッシュおよび計時 (Finish and time-keeping)

23.1. 競技者がフィニッシュ・ラインを越えたときに競技は終了する。

23.2. フィニッシュへの誘導がテープあるいはロープによってされてなければならない。最後の 20m は直線とする。

23.3. フィニッシュ・ラインの幅は、インターバル・スタートの場合は少なくとも 1.5m 以上、マス・スタートまたはチェイシング・スタートの場合は少なくとも幅 3m 以上でなければならない。ラインは、入ってくる方向に対して正しい角度になっていなければならない。フィニッシュ・ラインの正確な位置が、フィニッシュしようとする競技者にとって明瞭にわかるようになっていなければならない。

23.4. 競技者はフィニッシュ・ラインを越えたときに、コントロール・カードと、競技地図を提出しなければならない。

23.5. フィニッシュ・タイムは、競技者の胸がフィニッシュ・ラインを横切ったとき、フィニッシュ・ラインでパンチした時点、または計時用の光ビームが使われている場合は、地上 0.5~1m 上に設置されたビームを競技者が横切った時点で、計時することとする。タイムは秒以下を切り捨てとする。タイムは時間/分/秒または分/秒で表されることとする。

23.6. 計時システムは、同じクラスの競技者の相対的タイムを 0.5 秒以上の正確さで計時するものとする。（1/10 秒単位の計時の場合 0.05 秒）

WOC, WCup, JWOC

23.7. インターバル・スタート競技では、競技者がフィニッシュラインを走り抜けてフィニッシュできるよう、電子式フィニッシュ計時システムを

使用する。

WOC

23.8. スプリント競技においては、タイムは 1/10 秒以下を切り捨てとする。IOF が認可した適切な機器および手順を使用する。

JWOC

23.9. IOF が認可した適切な機器および手順が使われた場合、スプリント競技においては、タイムは 1/10 秒以下を切り捨てまでの計時としてもよい。

23.10. 正副 2 つの独立した計時システムが、競技の開始から終了まで使用されなければならない。

23.11. マス・スタートまたはチェイシング・スタートの競技では、フィニッシュ審判が決勝の順位を判定することとし、裁定委員のメンバーもフィニッシュ・ラインにいなければならない。

23.12. IOF イベントアドバイザーの同意があれば、主催者はそれぞれのクラスに競技時間の上限を定めてもよい。

23.13. フィニッシュには、医療用設備と担当者を配置し、森林へも出動できるようになっていなければならない。

WOC

23.14. 競技時間の上限は以下の通りとする。

- ・ スプリントは、女性・男性とも 50 分
- ・ ミドル・ディスタンスは、女性・男性とも 120 分
- ・ ロング・ディスタンスは、女性が 3 時間で男性が 4 時間
- ・ リレーは、女性が 4 時間で男性が 4.5 時間

24. 結果 (Results)

24.1. 暫定的な結果が、競技の間、フィニッシュ地区または参加者が集まる場所において発表され表示されることとする。

24.2. 公式の結果は、最後にスタートした者の競技可能時刻が経過した後、4 時間以内に公表されることとする。それらは、各チーム監督および公認のメディア取材者に競技の日のうちに配布されなければならない。

24.3. 予選・決勝レース競技の決勝が予選と同じ日に開催される場合は、予選の結果は最後にスタートした者の競技可能時刻が経過した後、30 分以内に公表されなければならない。

24.4. 公式の結果には、参加した競技者すべての分を記載しなければならない。リレーでは、オーダー順に競技者の名前とそのレッグでのタイム、および各自の走ったコース・パターンを記載しなければならない。

24.5. インターバル・スタートで、2 人以上の競技者が同タイムとなった場合は、結果リストでは同順位とする。同順位に続く順位は、空位のままとする。

24.6. マス・スタートまたはチェイシング・スタートでは、競技者がフィニッシュした順に順位が決まることとする。リレーではチームの最終走者がフィニッシュした順になる。

24.7. リレーで後ろのレッグがマス・スタートになった場合、マス・スタートに加わったチームの順位はチームの各競技者ごとの時間の合計で決めることとする。後ろのレッグがマス・スタートになったチームの順位は、チェンジ・オーバーできて正規の方法でフィニッシュしたチームより後になる。

24.8. 制限時間を超過した競技者およびチームは、順位がつかないこととする。

WOC, WCup, JWOC

24.9. すべての競技者、チーム・オフィシャル、公認のメディア取材者に、公式の結果リストおよび競技地図が与えられることとする。

WCup

24.10. ワールドカップの個人競技では、競技者が最もよい結果を出したレース競技での成績が、総合スコアにおいて意味を持つ。スコアの計算方法の詳細は、最初の競技会の最低 4 カ月前までに IOF 理事会によって決められる。

JWOC

24.11. リレーにおいて、メンバーが揃わないか、競技者が複数の連盟からなるチームは、順位を決めるときに無視され、公式結果にも記

載されないこととする。

JWOC

24.12. リレーで 2 チームを代表として参加させている連盟は、よい結果を出したチームの成績のみが、順位を決める上で考慮される。

JWOC

24.13. どのクラスでも、(団体競技で連盟の順位をつけるために) チーム・スコアを連盟ごとに計算する。計算方法は、連盟ごとに個人競技で上位 3 名の競技者の順位を足し、それにリレーの公式順位の 3 倍を足し合わせる。個人競技で完走した者が 3 名に満たない連盟は、どの失格者も最下位の一つ下の順位として扱う。リレー競技で順位がつかなかった連盟は、最下位の一つ下の順位として扱う。それから連盟ごとに男・女のチーム・スコアを足し合わせることで、総合のチーム・スコアを計算する。最もスコアの少ない者が勝者となる。

24.14. 結果は競技会の当日中にインターネットで公表し、IOF に電子的手段にて報告する。

24.15. 結果は、競技者の全コースのタイムを基に決められる。事前に告知することなく、スプリットタイムに基づいて一部の区間を引いてはならない。(交通量の多い道路を含む短い区間など。)

25. 表彰 (Prizes)

25.1. 主催者は権威ある表彰式を開催する。

25.2. 男女とも同等に表彰する。

25.3. 2 人以上が同順位になった場合も、それぞれが適当なメダルおよび/または賞状 (diploma) を授与される。

WOC

25.4. 世界チャンピオンのタイトルが、以下の 9 種目で与えられる：

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・ 女子、スプリント | ・ 男子、スプリント |
| ・ 女子、ミドル・ディスタンス | ・ 男子、ミドル・ディスタンス |
| ・ 女子、ロング・ディスタンス | ・ 男子、ロング・ディスタンス |
| ・ 女子、リレー | ・ 男子、リレー |
| ・ スプリント・リレー | |

JWOC

25.5. ジュニア世界チャンピオンのタイトルが、以下の 8 種目で与えられる：

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・ 女子、スプリント | ・ 男子、スプリント |
| ・ 女子、ミドル・ディスタンス | ・ 男子、ミドル・ディスタンス |
| ・ 女子、ロング・ディスタンス | ・ 男子、ロング・ディスタンス |
| ・ 女子、リレー | ・ 男子、リレー |

ROC

25.6. 地域チャンピオンのタイトルが、以下の 8 種目で与えられる：

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・ 女子、スプリント | ・ 男子、スプリント |
| ・ 女子、ミドル・ディスタンス | ・ 男子、ミドル・ディスタンス |
| ・ 女子、ロング・ディスタンス | ・ 男子、ロング・ディスタンス |
| ・ 女子、リレー | ・ 男子、リレー |

WOC, JWOC

25.7. すべての競技で以下の表彰が行われる。

- ・ 1 位 金メダル (楯) と賞状
- ・ 2 位 銀メダル (楯) と賞状
- ・ 3 位 銅メダルと賞状

・4位-6位 賞状

メダルおよび賞状は、IOF より供給される。

WOC

25.8. 表彰式は、主催連盟と IOF の代表者とによって執り行う。

WOC, JWOC

25.9. リレーにおいては、チームの個々のメンバーが、適切なメダルおよび／または賞状を受け取る。

WOC, JWOC

25.10. 表彰式の間、上位 3 位までの競技者の国旗を掲揚し、優勝者の国歌を演奏する。

WCup

25.11. 個人競技の各クラス 3 位まで、リレー競技の各クラス 3 位までが主催者により表彰される。個人競技で 6 位まで、リレー競技で 6 位までに IOF より賞状を授与される。

WCup

25.12. 最終競技会の後で、個人ワールドカップ総合成績の両方のクラスの 1 位の競技者には、IOF よりトロフィーを授与される。3 位までの競技者には IOF よりメダルを授与される。6 位までの競技者には IOF より賞状を授与される。

JWOC

25.13. (規則 24.13 にしたがって) 団体競技の総合スコアで優勝した連盟は IOF より表彰される。

WMOC

25.14. それぞれのクラスの決勝で上位 3 人の競技者は IOF よりメダルを授与される。

26. 公正な競技 (Fair play)

26.1. オリエンテーリング競技会に加わるすべての人は、公平で正直にふるまわなければならない。スポーツマンらしい態度と友情の精神を持っていなければならない。競技者は、他の競技者、オフィシャル、ジャーナリスト、観客および競技エリアの住民に、敬意を払わなければならない。競技者はテレインではできる限り静かにしていなければならない。

26.2. 事故の場合を除いて、競技中に他の競走者から助力を得たり、他の競技者を助けたりすることを、禁じる。負傷した競走者を助けることは、すべての競技者の義務である。

26.3. ドーピングは禁止である。IOF 反ドーピング規則がすべての IOF 競技会に適用され、IOF 理事会はドーピング取り締まり措置を実施することを要求してもよい。必要な TUE (治療使用免除) 証明を取得しておくのは競技者の責任である。

26.4. 開催地が公開されるまでは、すべての役員は、競技エリアおよびテレインについて厳密に秘密を維持しなければならない。コースについては厳密に秘密を維持しなければならない。

26.5. 競技テレインの調査や練習することを試みてはならない。競技の前または競技中に、主催者が提供する以上にコースに関する情報を手に入れることを試みてはならない。

26.6. 主催者は、当該テレインまたは地図を熟知していて、他の競技者より実質的に有利な立場にある競技者を、競技会に参加させないようにしなければならない。

26.7. チーム・オフィシャル、競技者、メディア取材者および観客人は、許可されたエリアの外に出てはいけない。

26.8. コントロール役員は、競技者を邪魔したり引きとめたり、あるいはいかなる情報も与えることをしてはならない。静寂にし、目立たない衣類を身につけて、コントロールに近づく競技者を手助けしないようにしなければならない。このことは、テレイン内にいる他のすべての人、例えばメディア取材者にも当てはまる。

26.9. フィニッシュラインを越えたら、競技者は主催者の許可なく競技テレインに再び立ち入ってはならない。棄権する競技者は、ただちにフィニッシュでこれを申告して、地図とコントロール・カードを提出しなければならない。棄権した競技者は、競技に影響を与えたり、他の競技者を助けるようなことをしてはならない。

26.10. いかなる規則でも違反したり、違反することで利益を得た競技者は、失格としてよい。

- 26.11. 競技者以外で、規則違反をした者は、懲戒処分を受けることがある。
- 26.12. 競技に競技者、オフィシャルまたは観客にとって危険になる事態が明らかになった場合、主催者はいかなる時点であっても競技を中断、延期またはキャンセルしなければならない。
- 26.13. 競技に著しく不公平になる事態が発生した場合、主催者は競技を無効（不成立）にしなければならない。
- 26.14. 競技会に出場する競技者、チーム役員、競技会役員が、オリエンテーリング競技会に関わる賭博に参加することを禁止する。競技会に関する賭博を支援したり宣伝することも禁止する。さらに、賭博に関わる買収行為に参加してはならない。このような行為には、結果について八百長をすること、結果のあらゆる面について操作すること、利益を得るために全力を尽くさないこと、賄賂を授受すること、内部情報を漏らすこと、が含まれる。

27. 申し立て (Complaints)

- 27.1. これらの規則や主催者からの指示に違反があれば、申し立て(complaint)をすることができる。
- 27.2. 申し立ては、チーム・オフィシャルまたは競技者がすることができる。
- 27.3. いかなる申し立ても、書面にてできるだけ速やかに主催者になされなければならない。申し立ては、主催者によって判定(adjudicate)される。判定結果は、ただちに申し立てをした者に通知されなければならない。
- 27.4. 申し立ては無料である。
- 27.5. 主催者は申し立ての時刻制限を設けてもよい。制限時刻の後でなされた申し立ては、説明しなければならないような例外的な事情があると認められるときのみ、考慮される。

28. 提訴 (Protests)

- 28.1. 申し立てに対する主催者の判定について、提訴(protest)をすることができる。
- 28.2. 提訴は、チーム・オフィシャルまたは競技者がすることができる。
- 28.3. いかなる提訴も、申し立てに対する主催者の判定が申し立てを行った者に通知されてから15分後までに、裁定委員のメンバーに書面でなされなければならない。締切時間を過ぎてなされた提訴は、その正当な理由を提訴状の中で説明し、裁定委員の裁量によって認めてもよい。

WOC, WCup, JWOC, WMOC, ROC

- 28.4. 提訴は 50 ユーロ（またはそれに相当する現地通貨）とし、提訴するときにはシニア・イベント・アドバイザーに現金で支払うこととする。裁定委員によって提訴が受け入れられた場合は手数料が返還される。提訴が複数の連盟によってなされる場合は、それぞれの連盟が提訴料を支払う。

WRE

- 28.5. 提訴は無料である。

29. 裁定委員 (Jury)

- 29.1. 提訴があった場合は、裁定委員が任にあたらなければならない。
- 29.2. IOF 理事会が、どの競技会に IOF から裁定委員を任命しなければならないかを定める。もし IOF が裁定委員を任命しなければ、主催者連盟が裁定委員を任命しなければならない。
- 29.3. 裁定委員は別々の連盟からの 3-5 人の投票権をもつメンバーから構成されなければならない。IOF イベントアドバイザーは裁定委員会を司会するが、いかなる投票権も持たない。
- 29.4. 主催者の代表者は、裁定委員会に参加する権利があるが、いかなる投票権も持たない。
- 29.5. 主催者は裁定委員の決定にしたがって行動しなければならない。例えば、主催者が失格とした競技者を復活させる、主催者によ

って承認された競技者を失格にする、主催者によって承認されたクラスの結果を不成立にする、あるいは主催者が不成立と宣言した結果を成立させる、など。

29.6. すべてのメンバーが揃ったときのみ裁定委員は決議をすることができる。緊急の場合は、裁定委員の過半数が決定に同意すれば、仮の裁定を行ってもよい。

29.7. 裁定委員メンバーが自ら公平な裁定が困難になったことを宣言するか、任務を遂行することができなくなった場合は、IOF イベントアドバイザーは、代行者を指名しなければならない。

29.8. 提訴に対処する際に裁定委員は、主催者を指示することに加えて、規則の違反行為が甚だしい者がいた場合、ある競技会の出場停止または未来永劫に IOF 競技会から追放することを IOF に勧告してもよい。

29.9. 裁定委員の決定が最終的なものになる。

WOC

29.10. 裁定委員は IOF 理事会によって任命される。異なる連盟からの 5 名のメンバーで構成されることとする。

JWOC, WMOC

29.11. 裁定委員は IOF 理事会によって任命される。異なる連盟からの 3 名のメンバーで構成されることとする。

WOC, JWOC

29.12. 裁定委員は男・女両方から構成されなければならない。主催者連盟から選出してはいけない。

TWG, WCup, WRE

29.13. 裁定委員は異なる連盟の 3 名のメンバーで構成されることとする。2 名は IOF 理事会によって任命される。1 名は主催者連盟によって任命される。

WRE

29.14. 裁定委員が 3 名のメンバーで構成されることとし、可能であれば異なる連盟より選出する。

30. アピール (Appeals)

(訳注 : Appeal はなされた決定に対する上告・控訴の意味であるが、ここではアピールと訳す)

30.1. 裁定委員がまだ組織されていないか、競技会が終わって裁定委員が解散していた場合には、これらの規則の違反に対してアピールしてもよい。

30.2. アピールは、連盟のみが行うことができる。

30.3. アピールは、できるだけ速やかに、IOF イベントアドバイザーの任命機関に書面でなされなければならない。

30.4. アピールは無料である。

30.5. アピールについての決定は、最終決定である。

30.6. IOF 理事会がアピールを取り扱う。

31. イベント・コントロール (Event control)

31.1. これらの規則に基づいて行われるすべての競技会は、IOF イベントアドバイザーの指揮下で行われなければならない。IOF イベントアドバイザーは、主催者の決定後 3 カ月以内に任命されなければならない。

31.2. どの競技会に IOF から IOF イベントアドバイザーを任命するか、IOF 理事会が決定しなければならない。

31.3. IOF イベントアドバイザーが IOF によって任命された場合は、彼（彼女）が主催者に対して IOF の公式の代表者となり、IOF 理事会の下に置かれ、IOF 事務局との連絡窓口となる。

31.4. 主催者連盟は必ず独立したコントローラーを任命しなければならない。このコントローラーは、IOF によって任命された IOF イベントアドバイザーを補佐することとする。IOF が当該競技会のために IOF イベントアドバイザーを任命しない場合は、連盟によって任命されたコントローラーが、IOF イベントアドバイザーとなる。連盟によって任命されるコントローラーは、主催者連盟の出身である必要はない。

31.5. すべての IOF イベントアドバイザーは、IOF イベントアドバイザーのライセンスを所有していなければならない。IOF イベントアドバイザーおよび IOF イベントアドバイザーのアシスタントは、参加しているチームに対していかなる責任も持たなくてよい。

31.6. IOF イベントアドバイザーは、規則が遵守され、間違いが排除され、最善の公平さが保たれていることを、保証しなければならない。IOF イベントアドバイザーは、もしそれが競技会の要求を満たすために必要があると考えれば、調整を強いる権限を持っている。

31.7. IOF イベントアドバイザーは主催者と密接に協力して動き、またすべての適切な情報が知らされていなければならない。プリテンなどのすべての公式の情報は、IOF イベントアドバイザーによる承認を受けた上で、連盟に送付されなければならない。

31.8. 少なくとも下記の項目について、IOF イベントアドバイザーの指揮下で実行されなければならない：

- ・競技会の開催地およびトレインの承認
- ・競技会組織の調査と、提案された宿泊設備、食物、輸送、プログラム、予算およびトレーニング機会の妥当性の評価
- ・式典の計画の評価
- ・役員の配置や、スタート、フィニッシュおよびチェンジ・オーバー地区のレイアウトの承認
- ・計時および結果を計算するシステムの信頼性および正確性の評価
- ・地図が IOF 標準に準拠しているかの確認
- ・難易度、コントロールの位置と器具、偶然性の要因および地図の正確さを含め、コースの品質を評価した上で、コースの承認
- ・メディアのための段取りおよび設備の評価
- ・ドーピング・テストの段取りおよび設備の評価
- ・公式成績の承認

31.9. IOF イベントアドバイザーは、自身が必要と考える回数だけ指揮に訪れなければならない。訪問の計画は、任命した機関および主催者の合意の上で作成されなければならない。訪問した後ただちに、IOF イベントアドバイザーは、簡潔な報告を書面で IOF イベントアドバイザーの任命機関に提出し、そのコピーを主催者へ送付しなければならない。

31.10. 特に地図の作成、コース設定、資金調達、後援およびメディアの分野で、IOF イベントアドバイザーを補佐するために、1 人か 2 人以上のアシスタントを、IOF イベントアドバイザーを任命した機関が任命してもよい。

31.11. IOF イベントアドバイザーの任命機関は、IOF イベントアドバイザーの任命を取り消す権限を持つ。

WOC

31.12. IOF イベントアドバイザーは少なくとも 3 回視察に訪れなければならない： 1 回は初期の段階、1 回は選手権の 1 年前、あと 1 回は選手権の 3~4 月前である。

32. イベント・レポート (Event reports)

32.1. 競技会の 3 週間後までに、主催者は完全な結果リストを添えた簡潔な報告書を IOF イベントアドバイザーへ提出しなければならない。

32.2. 競技会の 4 週間後までに、IOF イベントアドバイザーは、IOF イベントアドバイザーの任命機関に報告書を提出しなければならない。報告書には、競技会の特記すべき事項と申し立てまたは提訴の詳細を記載する。

WOC, WCup, JWOC, ROC

32.3. 競技会の 3 週間後までに、主催者は、コース詳細が記載された地図を 2 組と全成績リストを添付した短形式レポートを、IOF 事務局へ提出しなければならない。

WMOC

32.4. 競技会の 3 週間後までに、主催者は、短形式レポート、すべての A-決勝のコース図を含む地図のゼレクションと全成績リストを、IOF 事務局へ提出しなければならない。

WOC

32.5. 競技会の 6 カ月後までに、すべてのプリテン、スタート・リストを含む最終のプログラム、組織計画、および最終の決算報告のコピー

1 組が、公式記録のために、IOF 事務局に提出されなければならない。

33. 広告および後援 (Advertising and sponsorship)

33.1. タバコおよびアルコール度の強い酒 (hard liquor) の広告は禁止する。

33.2. 公式の式典中にチーム・メンバーが着るトラックスーツやその他の衣類につける広告は、300cm²を越えてはならない。スタート番号ゼッケン以外の、競技用の衣類または機器につける広告の数には、制限を設けない。

34. メディア・サービス (Media service)

34.1. 主催者は、メディア取材者が競技会を観察し報道するために、魅力的な作業環境および好意的な機会を提供しなければならない。

34.2. 最低でも主催者は、メディア取材者が下記のものを利用できるようにしなければならない：

- ・中級レベルのホテル宿泊設備。料金は利用者が負担する。
- ・スタート・リスト、プログラム小冊子、および競技の前日までの他の情報。
- ・モデル・イベントに参加する機会。
- ・フィニッシュ地区において、悪天防止対策のされた静かな作業スペース。
- ・結果リストとコースの記載された地図。競技終了後ただちに。
- ・インターネットへのアクセス。料金は利用者が負担する。

34.3. 主催者は、競技の公平さを損ねない限りにおいて、メディアの報道を最大限にするためのあらゆる努力をしなければならない。

付録 1: 一般的な競技クラス (General competition class)

1. 年齢クラス (Age classes)

- 1.1. 競技者は、性別・年齢によってクラスが分かれる。女子は、男子クラスに参加してもよい。
- 1.2. 20 歳以下の競技者は、その年度の終わりまでに達する年齢のクラスに属する。彼らは、21 歳までの年齢が含まれる上のクラスに参加する権利がある。
- 1.3. 21 歳以上の競技者は、その年齢に達する年度の始めから、それぞれのクラスへ属する。彼らは、21 歳以上の年齢が含まれる下のクラスに参加する権利がある。
- 1.4. 中心となる競技クラスは、それぞれ女子・男子別に W21 および M21 と呼ばれる。
- 1.6. 21 歳以下の競技者のために、M20 と W20、M18 と W18 というように、2 歳間隔にクラスを設ける。もっと年配の競技者のために、M35 と W35、M40 と W40 というように、5 歳間隔にクラスを設ける。
- 1.5. それぞれクラスは、コースの難易度や距離によって、E (エリート) -適用可能なら-、A,B,N (初心者) というサブ・クラスに分割してもよい。コース距離のみによってサブ・クラスに分割される場合は、S (ショート)、L (ロング) という。
- 1.7. エリート(E)クラスは、18、20、21 の年齢のクラスのみ提供される。E クラスへの出場は、各連盟よりエリートの競技者として分類されるか、連盟のランキング・システムでの位置により選出された競技者に制限される。

2. 平行クラス (Parallel classes)

- 2.1. 参加者が多すぎるクラスは、平行するクラスに分割することができる。エリート・クラスの分割は、競技者の直近の成績にもとづいて行われなければならない。エリート・クラス以外については、同じクラブ、地域、連盟からの競技者が平行するクラスの間で等しく配分されるようにしなければならない。

付録 2: コース・プランニングの原則 (Principles for course planning)

1. 序文 (Introduction)
 - 1.1 目的 (Purpose)
 - 1.2 これらの原則の適用 (Application of these principles)
2. 基本原則 (Basic principles)
 - 2.1 オリエンテーリングの定義 (Definition of orienteering)
 - 2.2 良いコース・プランニングの狙い (Aim of good course planning)
 - 2.3 コース・プランナーの大原則 (Course planner's golden rules)
3. オリエンテーリング・コース (The orienteering course)
 - 3.1 テレイン (Terrain)
 - 3.2 オリエンテーリング・コースの定義 (Definition of orienteering course)
 - 3.3 スタート (The start)
 - 3.4 コース・レッグ (The course legs)
 - 3.5 コントロール (The controls)
 - 3.6 フィニッシュ (The finish)
 - 3.7 地図読みの要素 (The elements of map reading)
 - 3.8 ルートチョイス (Route choices)
 - 3.9 難易度 (The degree of difficulty)
 - 3.10 競技の形態 (Competition types)
 - 3.11 コース・プランナーが狙うべきもの (What the course planner should aim)
4. コース・プランナー (The course planner)

1. 序文

1.1 目的

これらの原則は、オリエンテーリングというスポーツの競技において公平を保証し、その独自の特性を維持するために、にフット・オリエンテーリングのコース・プランニングのための一般標準を確立することを、狙いとしている。

1.2 これらの原則の適用

すべての国際フット・オリエンテーリング競技会のコースは、これらの原則にしたがって設計されなくてはならない。これらの原則は、それ以外のオリエンテーリング競技会のプランニングのための一般ガイドラインとしても役立てられるべきだ。「オリエンテーリング」という用語は、文中では特に「フット・オリエンテーリング」を意味している。

2. 基本原則

2.1 オリエンテーリングの定義

オリエンテーリングとは、競技者が地上に表示されたいくつかの地点（コントロール）を、地図とコンパスだけを使用して、可能な限り短時間で走破するスポーツである。フット・オリエンテーリングは、走りながらのナビゲーションに特性があるといつてよい。

2.2 良いコース・プランニングの狙い

コース・プランニングの狙いは、要求される能力を適切に試すために適切に設計されたコースを、競技者に提供することである。結果が、競技者の技術的・体力的能力を反映するようであってはならない。

2.3 コース・プランナーの大原則

コース計画者は、以下の原則を念頭においていなければならない：

- ・走りながらナビゲーションするというフット・オリエンテーリングの独自の特性
- ・競技の公平さ
- ・競技者の楽しみ
- ・野生生物および環境の保護
- ・マスコミおよび観客のニーズ

2.3.1 独自の特性

すべてのスポーツは、自身の特性を有する。オリエンテーリングの独自の特性は、いかに短時間で未知のトレインを通した最もよいルートを見つけて迎えるかということである。正確な地図読み、ルート選択の判断、コンパス操作、緊迫した状況での集中、迅速な決断、自然トレインの中での走力などの、オリエンテーリング技能が要求される。

2.3.2 公平さ

公平さが競技スポーツでは基本的に要求される。

コース・プランニングとコース設置の各段階において、最善の注意がなされなければ、オリエンテーリング競技においては、運が簡単に勝敗を左右しかねない。コース・プランナーは、競技が公平であり、すべての競技者がコースのすべての箇所と同じ条件で競うことを保証するために、すべての要因に気を配らなければならない。

2.3.3 競技者の楽しみ

競技者が与えられたコースに満足して初めて、オリエンテーリングの人気を高めることができる。それゆえに、コースが、距離、体力的・技術的な難易度、コントロール設置などの観点から適当であることを保証するように、慎重にコース・プランニングすることが必要である。この点において、それぞれのコースがそのコースを走る競技者にとって適当であることが、特に重要である。

2.3.4 野生生物および自然環境

環境は繊細である：野生生物をかき乱すかもしれないし、地面や植物は使い過ぎで被害を受けるかもしれない。環境には、競技エリアの住民、壁、フェンス、耕作地、ビルディングおよびその他の建設物等も含まれる。

ダメージを与えることなく最も繊細なエリアを使いながら、支障をきたすことのないようにする方法を見つけることが、普通に可能である。経験と調査は、正しい予防措置を行いコースがよく設計されていれば、大きな競技会でさえも永久的なダメージを与えることなく繊細なエリアで開催できることを示している。

コース・プランナーは、選択されたトレインへ立ち入り、トレインにいくつかの繊細なエリアがあることを、事前に確認しておくことがとても重要である。

2.3.5 マスコミおよび観客

オリエンテーリングというスポーツの良い印象を一般社会に与える必要は、コース・プランナーにとって永遠の関心事であるべきである。コース・プランナーは、スポーツとしての公平さに妥協することなしに、観客および報道陣が、競技の進行を可能な限り追って見られるように、努力すべきである。

3. オリエンテーリング・コース

3.1 テレイン

テレインは、すべての競技者に公平な競技を提供できるように、選定されなければならない。

そのスポーツの特性を維持するために、テレインは、走行可能で競技者のオリエンテーリング技能を試すのにふさわしくあるべきである。

3.2 オリエンテーリング・コースの定義

オリエンテーリング・コースは、スタート、コントロール、およびフィニッシュによって定義される。地図上で示してあり正しく正確にテレインに設置されたこれらのポイントとポイントの間がコース・レグであり、競技者はこの間をオリエンテーリングしなければならない。

3.3 スタート

スタート・エリアは、以下のような位置に設営されなければならない：

- ・ウォーミング・アップ・エリアがあること
- ・待機中の競技者が、スタートした者のとったルート選択を見ることができないこと

最初にオリエンテーリングを開始する地点は、テレインでは記印器具のついていないコントロール・フラッグが置かれ、地図上では三角形で記される。

競技者がスタート時点からオリエンテーリングの課題に直面するようにすべきである。

3.4. コース・レグ

3.4.1. 良いレグ

コース・レグは、最も重要なオリエンテーリング・コースの要素であり、たいていはそれが品質を決定するだろう。

よいレグは、競技者に面白い地図読みの課題を提供して、個性的なルート選択の可能性を持ちつつ、よいテレインの中に導く。

同じコースの中に、異なる種類のレグが提供されるべきで、ひたすらに地図読みを強いるものもあれば、ルート選択をしたらより容易に走れるというものもある、というのがよい。レグの距離や難易度が変化に富んでいて、競技者に幅広くオリエンテーリング技術および走るスピードを使い分けさせるようにするべきである。コース・プランナーは、連続しているレグにおいて大まかな方向に変化を持たせ、競技者自身に頻繁に方向の確認を繰り返させるように、尽力すべきである。

均等かつ品質の劣るレグがたくさんあるコースより、むしろ少しの非常に良いレグを短いレグで繋げて仕上げられているようなコースの方が望ましい。

3.4.2 レグの公平

いかなるレグも、競争的な条件のもとで、競技者が地図から予見することができない有利・不利を与えるようなルート選択を含むべきでない。

競技者に、立入禁止あるいは危険なエリアを横切らせる気にさせるようなレグは、避けなくてはならない。

3.5 コントロール

3.5.1 コントロール設置位置

地図上に示されたトレイン内の特徴物にコントロールが設置される。競技者は、順番が指定されていればその順番通りに、自分自身でルートを選択して、これらを回ってこなければならない。これには、慎重なコース設計と、公平さの保証を確認することが要求される。地図上で、コントロール付近の地形が正確に、またありうるすべての方向からのアプローチに対して方向と距離が正しく描写されていることが、特に重要だ。

もし地図上で、他にアプローチの助けになるような特徴物がなければ、コントロールを近距離からしか見えないような小さい特徴物に設置してはならない。

コントロールは、どの方向から来ればコントロール・フラッグが見えやすいかということが、地図またはコントロール位置説明からでは判断できないような場所に設置してはならない。

3.5.2 コントロールの機能

コントロールの主要機能は、オリエンテーリングのレグの始めと終わりを示すことである。

時には、他の特定の目的でコントロールが、使われる必要がある。例えば、危険な箇所や立入禁止エリアを迂回して競技者を通す場合などである。

コントロールは、給水や報道および観客の観戦ポイントとすることができる。

3.5.3 コントロール・フラッグ

コントロールの器具は、IOF 競技会規則に準拠しなければならない。

可能な限りにおいて、コントロール・フラッグは、競技者が記されたコントロールの特徴物に達した時に初めて見えるように、設置されるべきである。公平性のためには、コントロール位置に競技者がいるかいないかにかかわらず、コントロールの見つけやすさは同じであるべきである。決してコントロール・フラッグは隠されるべきでない： 競技者がコントロールに達したときに、フラッグを捜し回らなければならないようであるべきではない。

3.5.4 コントロール設置位置の公平

コントロールの設置位置は、細心の注意を払い、チェックして出て行く競技者が、アタックしてくる競技者をコントロールに導くような「鋭角」を特に避けるように、選択する必要がある。

3.5.5 コントロールの近接

異なるコースのコントロールは、あまりに近接に置かれすぎると、コントロール位置へ向かって正確にナビゲートしていた競走者を迷わすことになりうる。競技規則 19.4a 項に述べられているように、30m以内（地図の縮尺が 1:5000 や 1:4000 の場合は 15m 以内）に隣接して置いてはならない。さらに、地図上でもトレイン内でも、コントロールの特徴物がはっきりと異なる場合を除いては、コントロールは 60m（地図の縮尺が 1:5000 や 1:4000 の場合は 30m 以内）以内に隣接して置かれるべきではない。

3.5.6 コントロール位置説明

地図で示された特徴物に関してコントロールの位置は、コントロール位置説明によって定義される。

現地での正確なコントロール特徴物は、疑いなく地図で記されたポイントでなくてはならない。IOF コントロール識別記号によって明瞭かつ容易に定義することができないコントロールは、通常適当でなく避けられるべきだ。

3.6 ファイニッシュ

少なくともファイニッシュ・ラインへのルートの最後の箇所は、誘導するマーク・ルートにするべきである。

3.7 地図読みの要素

よいオリエンテーリング・コースにおいては、競技者はレースを通してナビゲーションに集中することを強いられる。それが特によいルート選択を行ったことによるものでない限り、地図読みやナビゲーションに注意を払う必要のない部分は避けるべきである。

3.8 ルートチョイス

ルートに選択肢があると、競技者は、トレインを評価し、そこから結論を導きだすために地図を使うことを強いられる。ルートチョイスは、競技者に独自の思考をさせ、フィールドの中に分散し、これによって「追従」を最小限にする。

3.9 難易度

いかなるトレインおよび地図でも、コース・プランナーは、広範囲の難易度を持つコースを設計することができる。レッグの難易度は、線状特徴物に沿うことのできる程度を多くしたり少なくしたりすることによって変えることができる。

競技者は、地図から得られる情報によってコントロールへアプローチする難易度を判断し、適切な技術を選択することができるべきである。

競技者に要求される技能、経験、および地図の詳細を読み取る能力に、注意を払うべきである。初心者や子供のためのコースを設計するときには、難易度のレベルを正しく設定することが、特に重要である。

3.10 競技の形態

コース・プランニングは、競争形態によって要求されることを考慮して、応じなければならない。例えば、スプリントやミドル・ディスタンス・オリエンテーリングのコース・プランニングでは、コースの全般を通して詳細な地図読みと、高いレベルの集中が要求されなければならない。リレー競技のコース・プランニングでは、競技の進行をその場で追って見たいという観客のニーズを考慮するべきである。また、リレーのコース・プランニングは、良好で十分なフォーキング／分散システムを含むべきである。

3.11 コース・プランナーが狙うべきもの

3.11.1 テレインを知る

コース・プランナーは、コントロールやレッグを使って設計する前に、テレインを熟知するべきである。

プランナーは、地図およびテレインに関連する条件が、競技の当日とコースを設計したときで、相違があるかもしれないということを知っておくべきである。

3.11.2 適切な難易度に設定する

初心者および子供のためのコースを、ついつい難しく設計しがちである。コース・プランナーは、自分自身のナビゲーション技能や、そのエリアを調査するときの自分自身の歩く速さによって、難易度を評価しないように注意すべきである。

3.11.3 公平なコントロール設置位置を使う

プランナーは、可能な限り最高のレッグを作ろうとして、不適当なコントロール位置を使ってしまうことがしばしばある。

競技者は、良いレッグと素晴らしいレッグの違いにはほとんど気がつかないが、コントロール位置やフラッグが隠されていたり、曖昧さがあつたり、紛らわしいコントロール位置説明などのによって、コントロールで予期しなかったタイム・ロスがあると、ただちに気づくだろう。

3.11.4 十分に離れた場所にコントロールを置く

たとえコントロールが識別番号を持っているにしても、コース途上でコントロール位置に正確にナビゲートしている競技者を迷わすほど、お互いに近づけてコントロールを設置するべきではない。

3.11.5 複雑すぎるルート選択は避ける

プランナーは、決して取られないであろうルート選択を考えて、それによって複雑な課題を構成することに時間を費やすかもしれない、ところが、競技者は「次善の」ルートを取ることによってルート・プランニングの時間を節約するかもしれない。

3.11.6 体力的に過度の負荷とならないコースとする

コースは、通常はそのコースに参加するに適した競技者が、その能力の水準でコースの全体を走破できるように設定されるべきである。

コースの登距離の合計は、想定される最短ルートの距離の4%を超えないようにするべきである。

マスターズのクラスにおいては、年齢があがるにつれてコースの体力的な困難さが徐々に少なくなるようにすべきである。M70とW65を超えるクラスでは、特に体力的な要求が過度にならないように留意しなければならない。

4. コース・プランナー

コース・プランニングに携わる者は、個人的に経験を積むことによって、良いコースの品質を理解し提供できるような能力を身につけてなくてはならない。プランニングの理論にも熟知し、競技のクラス別および形態別に要求される課題を、理解していなくてはならない。

コース・プランナーは、現場において、例えばトレインの状態、地図の品質、関係者および観客の存在といった、競技に影響を及ぼすような様々な要因を評価できなくてはならない。

コース・プランナーは、スタートからフィニッシュ・ラインまでの間のコースと競走に責任を持つ。コース・プランナーの仕事は、コントローラーによってチェックされなくてはならない。これは、重大な結果を引き起こすようなたくさん間違いが潜在しているため、必須である。

付録 3: 良好な自然環境対策における IOF の決議 (IOF resolution on good environmental practice)

1996 年 4 月 12-14 日の国際オリエンテering連盟会議において、オリエンテeringが自然環境と友好的な関係を維持することの重要性を認識し、1995 年 10 月 26 日の環境の GAISF 決議にしたがって、以下の原則を採択した：

- ・ 健全な環境を保護する必要を理解し、この原則をオリエンテeringの基礎的な行為と統合することを継続すること。
- ・ 競技規則および競技会を組織する最もよい実施方法が、自然環境および植物相と動物相の保護に関する原則に反しないことを保証すること。
- ・ 最もよい実施方法が明確に定義づけられるように、地主、行政当局、および環境組織と協力すること。
- ・ 環境保全のための地方ごとの規制を遵守し、オリエンテeringでゴミを出さない性質を維持し、汚染を避けるために必要な措置をとることに、特に配慮すること。
- ・ オリエンティアおよび役員の教育およびトレーニングに、環境へのよい実践に関することを含むこと。
- ・ 各国の連盟が、世界的な環境問題の理解を高め、地方における繊細なオリエンテeringの使用を維持するための原則を採択して適用し、広く認知されるようにすること。
- ・ 各国の連盟が、自国の事情にそって環境への良い実践ガイドラインを用意することを、推奨すること。

付録 4: 認可されたパンチング・システム (Approved punching systems)

[競技規則 20.1 に、「IOF が認可した電子的パンチング・システムのみ使用してもよい。」と記述されている。]

- ・ (2017 年 1 月時点で) 完全に認可されているコントロール・パンチング・システムは、以下のものだけである：
 - ・ エミット (Emit) 電子パンチ & 計時システム
 - ・ SI (SPORTident) システム
 - ・ エミット・タッチ・フリー・パンチング・システム (Version 2013 onwards)
 - ・ SI Air+システム (range ~30cm)

- ・ 最新の認可されたバージョンの詳細は、仮承認されているシステムとともに、IOF のホームページに掲載される。

- ・ 上記以外のコントロール・パンチング・システムを使用する場合は、事前に IOF 競技会標準委員会の承認が必要である。

- ・ エミット・システムの場合、競技者の電子的コントロール・カードにバックアップ記印のために付されているバックアップ・ラベルは、水につかるなどの競技中に起こりうる状況に耐えうるものでなくてはならない。万一電子パンチが故障していたときのために、バックアップ・カードに明瞭に記印してくることは、競技者の責任である。

- ・ SI システムの場合、各コントロールにバックアップ用のピン・パンチを設置しなければならない。E カードを差し込んで、フィードバック・シグナルを確認してから、E カードを抜くということは、競技者の責任である。フィードバック・シグナルが確認できなかったときには、バックアップ機器を使用しなければならない。

- ・ コントロール・カードはすべてのコントロールを通過したことが明瞭に示せるものでなければならない。コントロール・パンチが欠落しているか不明瞭なものがある競技者は、パンチのミスが競技者の落度ではないことが立証できなければ、失格となる。例外的に、コントロール役員またはカメラによる確認やコントロール機器を読み取ってくることで通過証明とすることができる。それ以外の場合には、そのような証拠は認められず、競技者を失格としなければならない。SI の場合は、この規則は以下を意味する。
 - ・ 1 つの機器が故障していた場合は、競技者は用意されているバックアップを使用しなければならず、パンチの記録がなければ失格とする。
 - ・ 競技者のパンチが速すぎてフィードバック・シグナルを受け取れなかった場合は、カードにはパンチの記録がないので、(たとえコントロール機器が競技者のカード・ナンバーを記録していても) 競技者は失格となる。

付録 5: ライプニッツ協定 (Leibnitz Convention)

2000年8月4日、オーストリアのライプニッツにて開催された第20回 IOF 総会に出席した我々 IOF のメンバーは、以下のことを宣言する。

このスポーツ（オリエンテーリング）を、より多くの人々や新しい地域に拡大し、オリエンテーリングをオリンピック種目とすることが、明らかに重要である。これを達成するために、以下のことが主要な手段になる。

- ・ 競技者、役員、メディア、観客、スポンサー、外部パートナーにとって良質で、魅力的でエキサイティングなオリエンテーリング競技会を開催すること。
- ・ IOF イベントを TV やインターネットにとって魅力的なものとする。

我々は以下のことを狙いとする。

- ・ 競技会を人々のいる場所の近くで開催し、オリエンテーリングがより見やすいものにする。
- ・ 設備の設計や品質により多くの注意を払うことにより、競技会場をより魅力的にする。
- ・ 競技会場内にスタートとフィニッシュを設けることにより、競技会場をエキサイティングな雰囲気に改善する。
- ・ スリリングなスポーツ番組を作成するために、競技会がより多くのより良い機会を提供することにより、テレビやその他のメディアでの報道範囲を高める。
- ・ メディア取材者の便宜を図り、ケータリングを改善（通信機器、スタート／フィニッシュおよび森の中でのランナーへの接近、絶え間のない中間タイム計時情報、食事や飲料などについて）することにより、メディア・サービスを改善する。
- ・ IOF 競技会に関連しているスポンサーや外部パートナーを宣伝することに、より多くの注意を払う。

我々 IOF のメンバーは、これらの対策が、今後すべての IOF イベントの主催者によって考慮されることを期待する。

付録 6: 競技の構成 (Competition Format)

1. スプリント

1.1 特徴

スプリントの特徴は、「ハイスピード」である。スプリントは、競技者が高速で走りながら、複雑な状況下で地図を読み解釈する力、ルートチョイスをプランし実行する力を試す。コースは、競技を通じてスピードという要素が維持されるように設定されなければならない。コースには登りが含まれていてもよいが、競技者が歩かなければならないような急斜面は避けるべきである。コントロールの発見を難しくするのではなく、ベストルートを選び完遂することを要求すべきである。例えば、コントロールからの最も容易な脱出は、必ずしもベストルートとは限らない。コースは、競技を通じて、競技者に高い集中力を要求するように設定されるべきである。それができないような環境は、スプリントには適さない。

1.2 コース設定において考慮すべき点

スプリントにおいては、コースを通じて観客が認められる。コース設定はそれを考慮し、全コントロールを有人とする。重要な小道には、競技者の接近を観客に警告し、競技者が妨げられないようにするために、警備要員を置くことも必要かもしれない。スタートは会場に置き、コースに沿って観客用の場所を用意してもよい。仮設スタンドを設け、実況アナウンサーを置けば、観客にとっての価値はさらに高まるだろう。コースは、競技者が私有地や立ち入り禁止地域を通してショートカットしようとするのを避けるように組まなければならない。その危険がある場合、そのようなことを避けるため、問題のある場所に審判を配置すべきである。複雑すぎて競技者が高速で走りながら地図を解釈できないような場所（例えば複雑な 3 次元構造）は避けるべきである。

1.3 地図

ISSOM 仕様に従わなければならない。地図の縮尺は 1:4000 か 1:5000 である。地図は、正確であり、高速で読み取れること、ルートチョイスやスピードに影響を与える特徴物の記載が正しいことが重要である。街中でない場合は、走るスピードを落とすことになる状況について、その程度と範囲を正しく表記することが重要である。街中の場合は、通過を妨げる障害物が正しく地図記号で表現されなければならない。

1.4 優勝設定時間、スタート間隔、計測

優勝設定時間は、男女とも 12～15 分であり、その中の短めの時間が望ましい。WOC とワールド・カップにおいては、予選と決勝で優勝設定時間に違いはない。スタート間隔は 1 分ごとのタイムスタート、個人競技である。計時は通常 1 秒単位で行われる。しかし WOC 決勝においては 0.1 秒単位とし、スタート枠での電子計時と、フィニッシュでのチームによる電子計時が行われる。競技者は、スタート枠を出てから地図を見ることができる。

2. ミドル・ディスタンス

2.1 特徴

ミドル・ディスタンスの特徴は、「技術的難しさ（テクニカル）」である。街中でない場所（多くの場合森林）で行われ、正確なナビゲーションが強調され、コントロール発見が難しいコースが組まれる。一貫して地図読み集中が必要であり、コントロールへ向かうまたは離れる方向が時折変化する。ルートチョイスの要素は重要だが、オリエンテーリングの技術的要求を損なうべきではない。ルートそのものが、ナビゲーションを要求するものとするべきである。コースはスピードの変化、例えばレグにより異なるタイプの植生など、を要求するものとする。

2.2 コース設定において考慮すべき点

競技者が、コースの途中およびフィニッシュするのを観客から見られるようにすべきである。スタートは会場に置き、競技中に競技者が会場を

横切るようにするのが望ましい。会場選定の要求レベルは、適したトレインという点でも観客に競技者を見せるという点でも、非常に高い。会場を横切る（会場内のコントロールを含む）場所以外では、コースでの観戦は認められない。

2.3. 地図

標準の ISOM 仕様に従わなければならない。地図の縮尺は 1:10000 である。トレインは、1:15000 用に作図され、ISOM の規定通りに拡大されなければならない。

2.4. 優勝設定時間、スタート間隔、計測

優勝設定時間は、男女とも 30～35 分である。WOC とワールド・カップにおいては、予選の優勝設定時間は 25 分とする。スタート間隔は 2 分ごとのタイムスタート、個人競技である。計時は通常 1 秒単位で行われる。競技者は、スタート枠を出てから地図を見ることができる。

3. ロング・ディスタンス

3.1 特徴

ロング・ディスタンスの特徴は、「肉体的な耐久力」である。中でない場所（多くの場合森林）で行われ、競技者の効率的なルートチョイス能力、地図を読み解釈する力、長く肉体的に厳しい中で持久力を維持してレースを組み立てる力が試される。この競技は、タフであれば起伏のあるトレインで、ルートチョイスとナビゲーションが強調される。コントロールは、難しいルートチョイスのあるロングレグの終着点であり、必ずしも発見が難しい必要はない。ロング・ディスタンスは、部分的にミドル・ディスタンスの要素を組みこんでもよい。その場合、コースは、突然ルートチョイス・オリエンテーリングのパターンから、より技術的に難しいレグへ変化することになる。

3.2 コース設定において考慮すべき点

競技者が、コースの途中およびフィニッシュするのを観客から見られるようにすべきである。スタートは会場に置き、競技中に競技者が会場を横切るようにするのが望ましい。ロング・ディスタンス特有の要素は、平均のレグよりずっと長いロングレグの存在である。ロングレグは、トレインの性質にもよるが、1.5km～3.5km の長さに及ぶ。複数のそのようなロングレグがコースの一部を構成する（そこでも選択したルート上での地図読みの集中力は要求される）。ロングレグのもう一つの重要な要素は、バックになった競技者を分散させるコース設定技術である。特に 2 分間隔スタートの場合、バタフライその他の分散手段を用いるべきである。視界の悪い部分にコースを組み、トレインを分散手段として使うのも重要である。会場を横切る（会場内のコントロールを含む）場所以外では、コースでの観戦は認められない。

3.3 地図

標準の ISOM 仕様に従わなければならない。地図の縮尺は 1:15000 である。

3.4 優勝設定時間、スタート間隔、計測

優勝設定時間は、女子は 70～80 分、男子は 90～100 分である。WOC とワールド・カップにおいては、予選の優勝設定時間は女子 45 分、男子 60 分とする。スタート間隔は 3 分ごとのタイムスタート、個人競技である。競技者は、スタート枠を出てから地図を見ることができる。

4. リレー

4.1 特徴

リレーの特徴は、「チーム競技」である。リレーは、街中でない場所（多くの場合森林）で行われる。この形式は、技術的要求のコンセプトで行われ、ロング・ディスタンスよりはミドルに近い。競技者が、直接接触なく追い越すことができるよう、比較的長いルートチョイスレグのようなロング・ディスタンスの特徴も併せもつべきである。競技者がお互いの姿を見失うような特徴（藪や多くのアップダウンなど）を持つトレインが、良いリレー・トレインである。ずっと見通しの良いトレインはリレー向きではない。

4.2. コース設定において考慮すべき点

リレーは、チーム競技の直接対決であり、早くフィニッシュしたものが勝者という、観客を楽しませる競技である。会場レイアウトとコース設定はこの点を考慮すべきである（例えば、フォーク形式の場合、異なるコースの所要時間の差は小さくすべきである）。競技者は、各走順とも、会場を横切るようにすべきであり、可能ならば、競技者が最終コントロールに近づくのを会場が見られるのが望ましい。適切な数の中間計時（できれば森の中からの実況とともに）を用意すべきである（会場のスクリーンに映される TV コントロールも）。マススタート形式であるため、競技者を分散させるコース設定技術（例：フォーキング）が必要となる。有力チームは、注意深く別のフォーキング・パターンに割り当てるべきである。公平さを保つために、最終走者の最後の部分はすべての競技者に共通とすべきである。会場を横切る（会場内のコントロールを含む）場所以外では、コースでの観戦は認められない。

4.3. 地図

標準の ISOM 仕様に従わなければならない。地図の縮尺は 1:15000 または 1:10000 である。地図縮尺は、コース設計の複雑さを基に決められる（例えば、コントロール間が近接したショートレグがある場合、大きな縮尺が必要かもしれない）。1:10000 が用いられる場合、トレインは、1:15000 用に作図され、ISOM の規定通りに拡大されなければならない。

4.4. 優勝設定時間、スタート間隔、計測

優勝設定時間（優勝チームの合計時間）は、女子 120 分、男子 135 分である。この合計時間の範囲内で、レグ（走順）間の時間は異なってもよい。ただし、どのレグも 60 分より長く、または 30 分より短くすべきではない。リレーは、マススタート形式で、男女とも 3 レグ（3 人）で構成される。WOC では、計時は電子式が望ましいが、手動計時を用いてもよい。フィニッシュ地点では、正確な順位判定をアシストするため、写真撮影を用意しなければならない。

5. スプリント・リレー

5.1. 特徴

スプリント・リレーの特徴は、「男女混合の高速で直接対決の競走」である。都市と公園の環境で行われる。形式はスプリント競技とリレーのコンセプトの組み合わせである。4 本のレグがあり、最初と最後のレグは女性が走る。

5.2. コース設定において考慮すべき点

競技で必要となる羽比較的小さなエリアですむ（特に会場の通路を使う場合）。この競技会は、観客にとって理解しやすくする。コースの少なくとも 70~80% を TV カメラでカバーすることが可能であるべきである。競走は、75 分のライブ放送と、放送の紹介、インタビュー、賞品授与式に 15 分を割り当てるとい、会場の制作コンセプトに基づいていなければならない。。可能であれば、コースの質に過度に妥協することなく、アリーナの通路を使用すべきである。コースに総合的なテレビのカバレッジがある場合、会場の通過は必ずしも必要ではない。これにより、コースプランの柔軟性を高め、より良い、より困難なコースを可能にするかもしれない。地図上で、会場を通過する両側に 1 つのループを印刷するというように、1 レグにつき 2 つのループを使用する必要がある。コースは分散 (fork) していなければならない。GPS トラッキングが必要で、「タッチフリー」パンチングを考慮する必要がある。

5.3. 地図

1.3 スプリントを参照。

5.4. 優勝設定時間、スタート間隔、計測

優勝設定時間（優勝チームの合計時間）は 55-60 分である。各レグの時間は 12-15 分とし、最初と最後のレグ（女性が走る）は 2 番目と 3 番目のレグより少し短くする。WOC では、計時は電子式が望ましいが、手動計時を用いてもよい。フィニッシュ地点では、正確な順位判定をアシストするため、写真撮影を用意しなければならない。